

平成 19 年 9 月の地震活動及び火山活動について

○ [地震活動]

震度 5 弱以上を観測した地震及び津波を観測した地震はありませんでした。なお、期間外ですが、10 月 1 日に神奈川県西部で M4.9 の地震が発生し、神奈川県箱根町で震度 5 強を観測しました。

全国で震度 1 以上を観測した地震の回数は 126 回、日本及びその周辺における M 4 以上の地震の回数は 59 回でした。

国土地理院の G P S 観測結果では、全国の地殻変動について特に目立った変動は見られません。

震度 3 以上を観測するなどの主な地震活動の概況は別紙 1 のとおりです。また、世界の主な地震は別紙 2 のとおりです。

○ [火山活動]

諏訪之瀬島では、17 日に爆発的噴火が 2 回発生したほか、28～29 日に小規模な噴火が発生しました。

桜島では、今期間噴火は観測されませんでした。長期にわたり噴火活動が継続しています。

三宅島では、多量の火山ガスの放出が続いています。

樽前山、硫黄島、福德岡ノ場、薩摩硫黄島及び口永良部島では、火山活動のやや活発な状況が続いています。

日本の主な火山活動の概況は別紙 3 のとおりです。また、世界の主な火山活動は別紙 4 のとおりです。

注 1：国土地理院の GPS による地殻変動観測については、国土地理院ホームページの記者発表資料「平成 19 年 8 月～9 月の地殻変動について」を参照ください。

<http://www.gsi.go.jp/WNEW/PRESS-RELEASE/2007/goudou1009.htm>

注 2：気象庁の地震活動資料には、防災科学技術研究所や大学等関係機関のデータも使われています。

注 3：地震活動および火山活動の詳細については、地震・火山月報(防災編)2007 年 9 月号(2007 年 10 月末頃に刊行及び気象庁ホームページ掲載予定)をご覧ください。

注 4：平成 19 年 10 月の地震活動及び火山活動については、平成 19 年 11 月 9 日に発表の予定です。

2007 年 9 月の主な地震活動^{注 1)}

番号	月 日	時 分	震央地名	深さ (km)	M	最大 震度	備考／コメント
1	9 月 4 日	1時14分	千島列島	126	6.3	2	太平洋プレート内部で発生した地震
2	9 月 7 日	2時51分	台湾付近	66	6.6	3	
3	9 月 22 日	17時00分	宮古島近海	48	5.1	3	フィリピン海プレートの沈み込みに伴い発生した地震
4	9 月 28 日	22時38分	マリアナ諸島	268	7.6	2	太平洋プレート内部で発生した地震

注 1) 「主な地震活動」とは、①震度 4 以上の地震、②M6.0 以上の地震、③陸域で M4.5 以上かつ震度 3 以上の地震、④海域で M5.0 以上かつ震度 3 以上の地震、⑤前に取り上げた地震活動で活動が継続しているもの、⑥その他、注目すべき活動。

その他の活動^{注 2)}

月 日	時 分	震央地名	深さ (km)	M	最大 震度	備考／コメント
10 月 1 日	2時21分	神奈川県西部	14	4.9	5強	
10 月 9 日	2時10分	北海道東方沖	50	5.8	4	

注 3)

注 2) 「その他の活動」とは、注 1) の主な地震活動の基準に該当する地震で 2007 年 10 月中に発生したもの。

注 3) 震源要素（時刻、震央地名、深さ、M）は速報値。

・地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会検討結果

2007 年 9 月 25 日に気象庁において第 256 回地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会（定例会）を開催し、気象庁は「最近の東海地域とその周辺の地震・地殻活動」として次のコメントを発表しました。その後も地震・地殻活動等の状況に変化はありません。

現在のところ、東海地震に直ちに結びつくような変化は観測されていません。

全般的には顕著な地震活動はありません。静岡県中部ではプレート内で通常より活動レベルが低く、地殻内ではやや高い状態になっていますが、その他の地域では概ね平常レベルです。

東海地域及びその周辺の地殻変動には注目すべき特別な変化は観測されていません。

※ 本資料中のデータについて

気象庁では、平成9年11月10日より、国・地方公共団体及び住民が一体となった緊急防災対応の迅速かつ円滑な実施に資するため、気象庁の震度計の観測データに合わせて地方公共団体及び独立行政法人防災科学技術研究所*から提供されたものも震度情報として発表している。

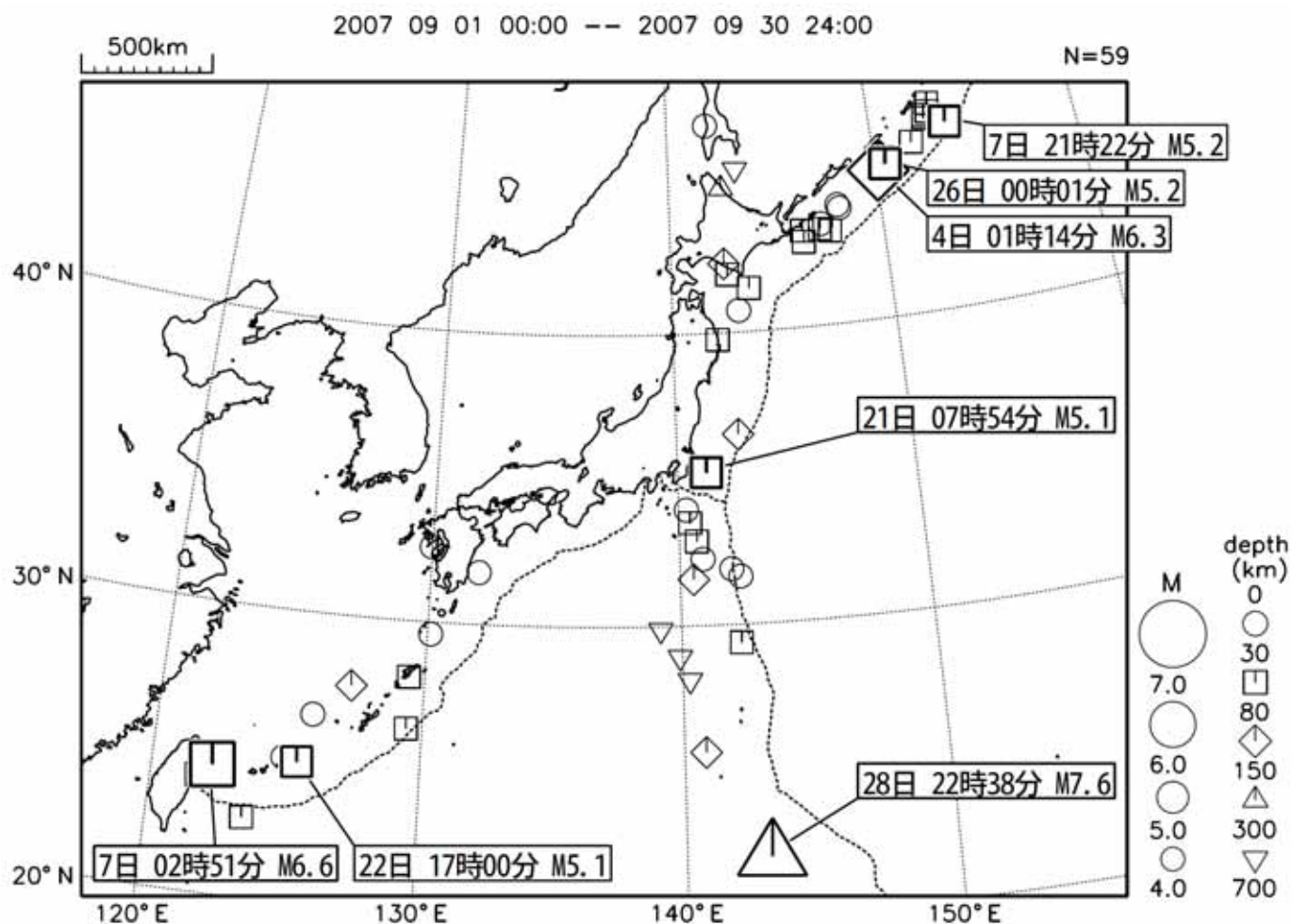
また、気象庁では、地震防災対策特別措置法の趣旨に沿って、平成9年10月1日より、大学や独立行政法人防災科学技術研究所等の関係機関から地震観測データの提供を受け**、文部科学省と協力してこれを整理し、整理結果等を、同法に基づいて設置された地震調査研究推進本部地震調査委員会に提供するとともに、気象業務の一環として防災情報として適宜発表する等活用している。

なお、地震・火山観測データの整理結果については、「地震・火山月報（カタログ編）」に掲載している。

注* 秋田県、埼玉県、新潟県、愛知県、大阪府、奈良県、和歌山県、岡山県、山口県、横浜市（神奈川県）（以上1府8県、1政令指定都市は平成9年11月10日から発表）、群馬県、福井県、静岡県、三重県、島根県及び愛媛県（以上6県は平成10年6月15日から発表）、青森県、山形県、茨城県、石川県、京都府、兵庫県、鳥取県、広島県、徳島県、熊本県、宮崎県及び鹿児島県（以上1府11県は平成10年10月15日から発表）、東京都、長野県（以上1都1県は平成11年7月21日から発表）、栃木県、千葉県、岐阜県、名古屋市（愛知県）（以上3県、1政令指定都市は平成12年1月12日から発表）、滋賀県（平成12年3月28日から発表）、富山県、香川県、大分県（以上3県は平成12年7月18日から発表）、佐賀県（平成13年3月22日から発表）、山梨県、川崎市（神奈川県）（以上1県、1政令指定都市は平成13年5月10日から発表）、高知県（平成13年7月19日から発表）、福島県（平成13年12月12日から発表）、岩手県、宮城県、神奈川県、福岡県、仙台市（宮城県）（以上4県、1政令指定都市は平成14年3月20日から発表）北海道、長崎県（以上1道1県、平成14年7月29日から発表）、沖縄県（平成15年3月10日から発表）の47都道府県、4政令指定都市と独立行政法人防災科学技術研究所（平成16年5月26日から発表）。

注** 平成19年9月末現在：独立行政法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、気象庁、独立行政法人産業技術総合研究所、国土地理院、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所、横浜市及び独立行政法人海洋研究開発機構による地震観測データを利用している。また、富山・石川・岐阜・長野県を中心とする総合観測として、歪集中帯大学合同地震観測グループ（北海道大学・弘前大学・東北大学・千葉大学・東京大学地震研究所・名古屋大学・京都大学防災研究所・金沢大学・福井工業高専・九州大学・鹿児島大学）が行っている自然地震観測のデータを利用している。また、能登半島地震合同観測グループ（東京大学地震研究所、北海道大学、東北大学、名古屋大学、金沢大学、京都大学防災研究所、九州大学、鹿児島大学、防災科学技術研究所、産業技術総合研究所）が行っている自然地震観測のデータを利用している。このほか、2007年新潟県中越沖地震緊急観測グループのデータを利用している。

2007 年 9 月の全国の地震活動 (マグニチュード 4.0 以上)



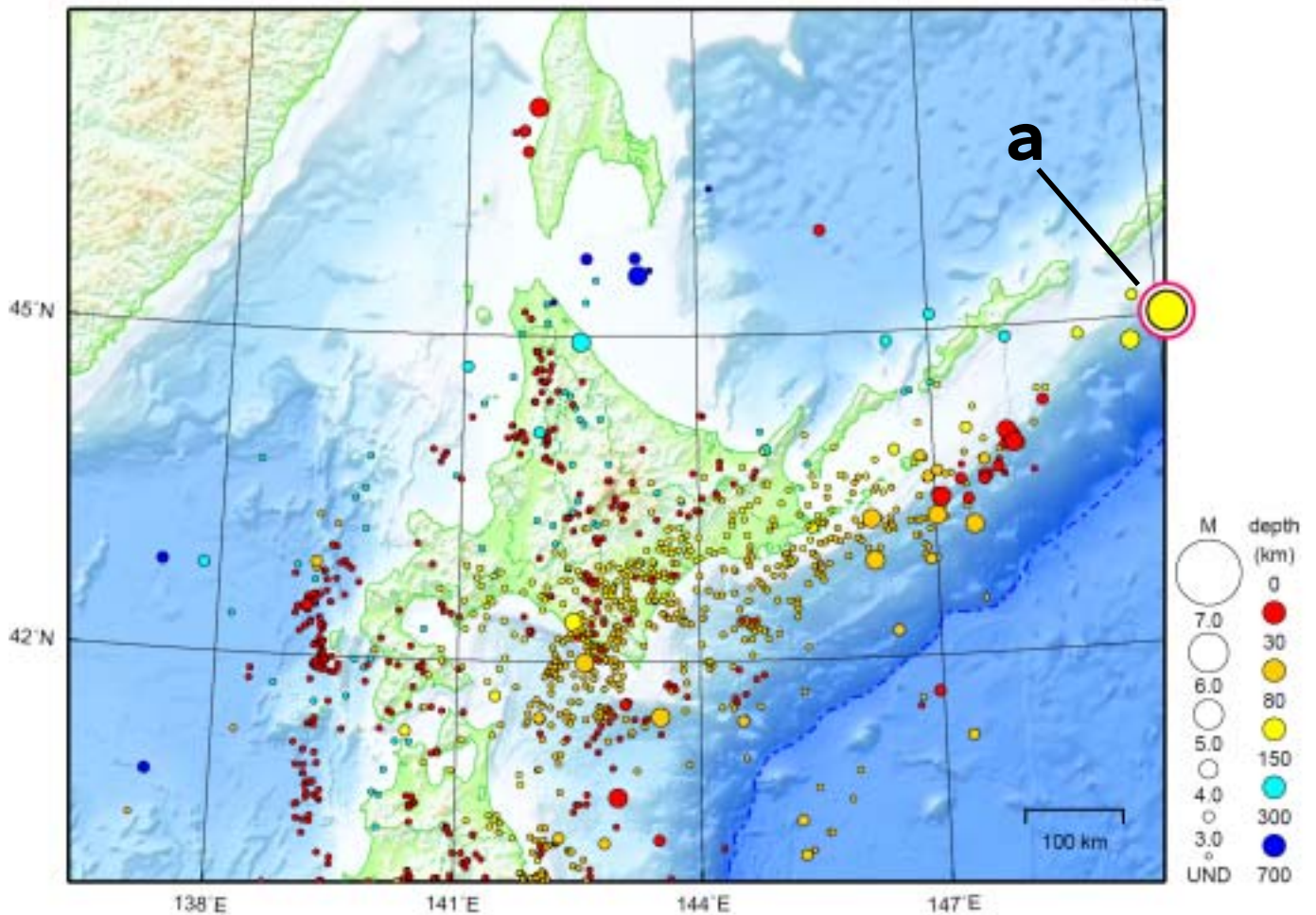
9月4日に千島列島で M6.3（最大震度 2）の地震があった。
 9月7日に台湾付近で M6.6（最大震度 3）の地震があった。
 9月28日にマリアナ諸島で M7.6（最大震度 2）の地震があった。

なお期間外ではあるが、10月9日に北海道東方沖で M5.8 の地震（最大震度 4）があった。

北海道地方

2007/09/01 00:00 ~ 2007/09/30 24:00

N=1182



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

a) 9月4日に千島列島で M6.3 (最大震度 2) の地震があった。

(上記期間外)

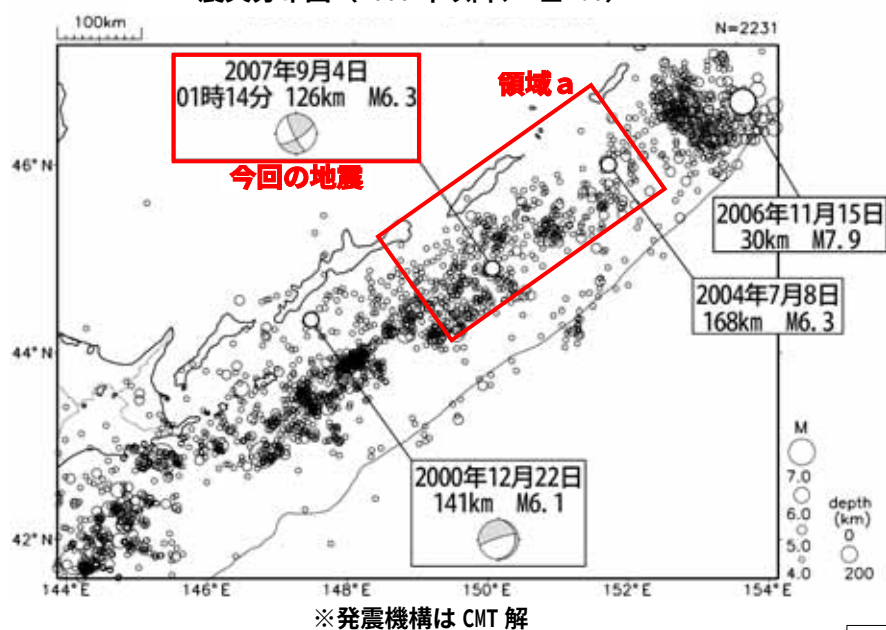
10月9日に北海道東方沖で M5.8 (最大震度 4) の地震があった。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上のいずれかに該当する地震。]

気象庁・文部科学省

9月4日 千島列島（ウルップ島付近）の地震

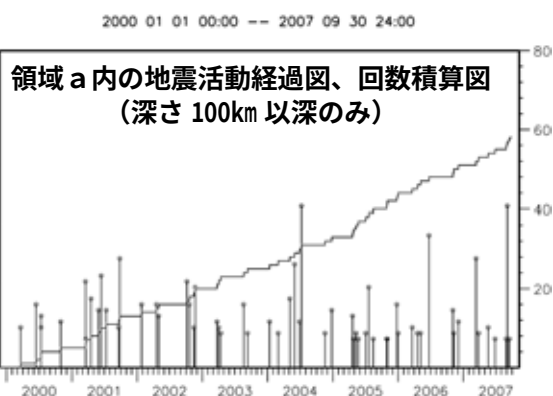
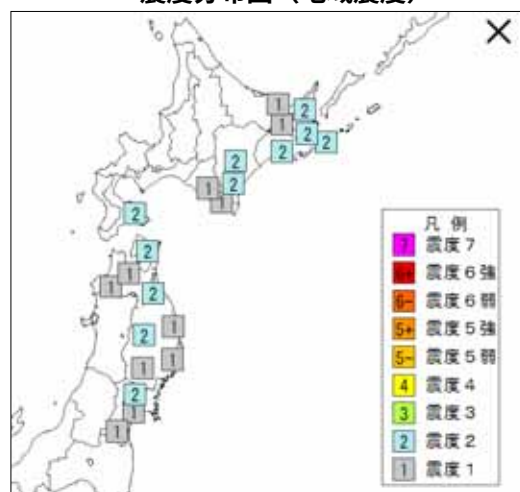
震央分布図（2000 年以降、 $M \geq 4.0$ ）



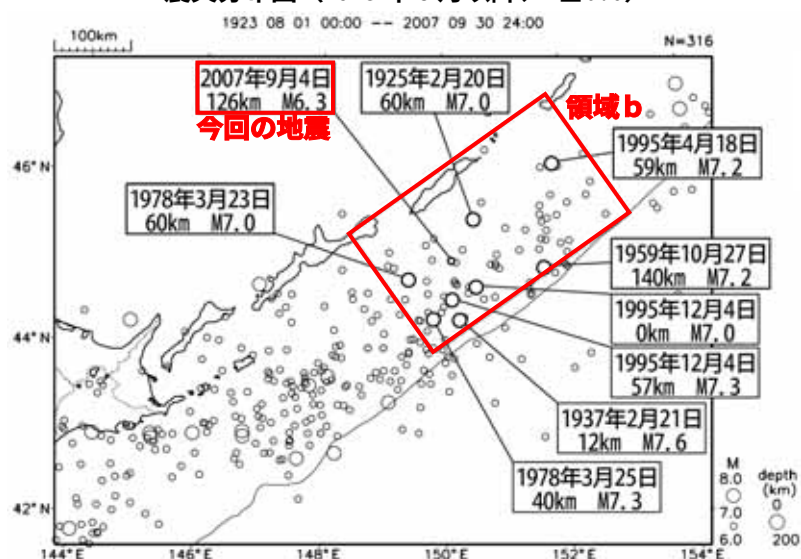
2007 年 9 月 4 日 01 時 14 分に千島列島（ウルップ島付近）の深さ 126km で M6.3 の地震が発生した。この地震により、北海道から東北地方の太平洋側などで震度 2 ～ 1 を観測した。余震は 4 日と 5 日に M3 クラスのものが発生しただけで、活発ではなかった。

発震機構（CMT 解）は西北西－東南東方向に圧力軸を持つ型であった。

震度分布図（地域震度）

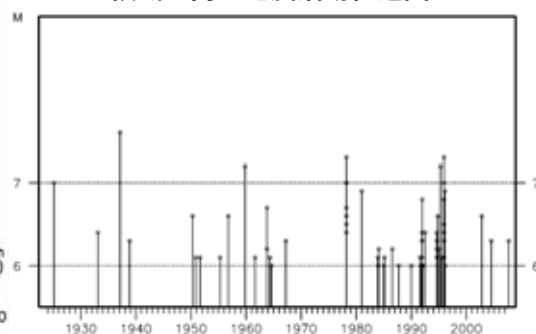


震央分布図（1923 年 8 月以降、 $M \geq 6.0$ ）



1923 年以降、今回の地震の震央の周辺では M7 クラスの地震がたびたび発生している。

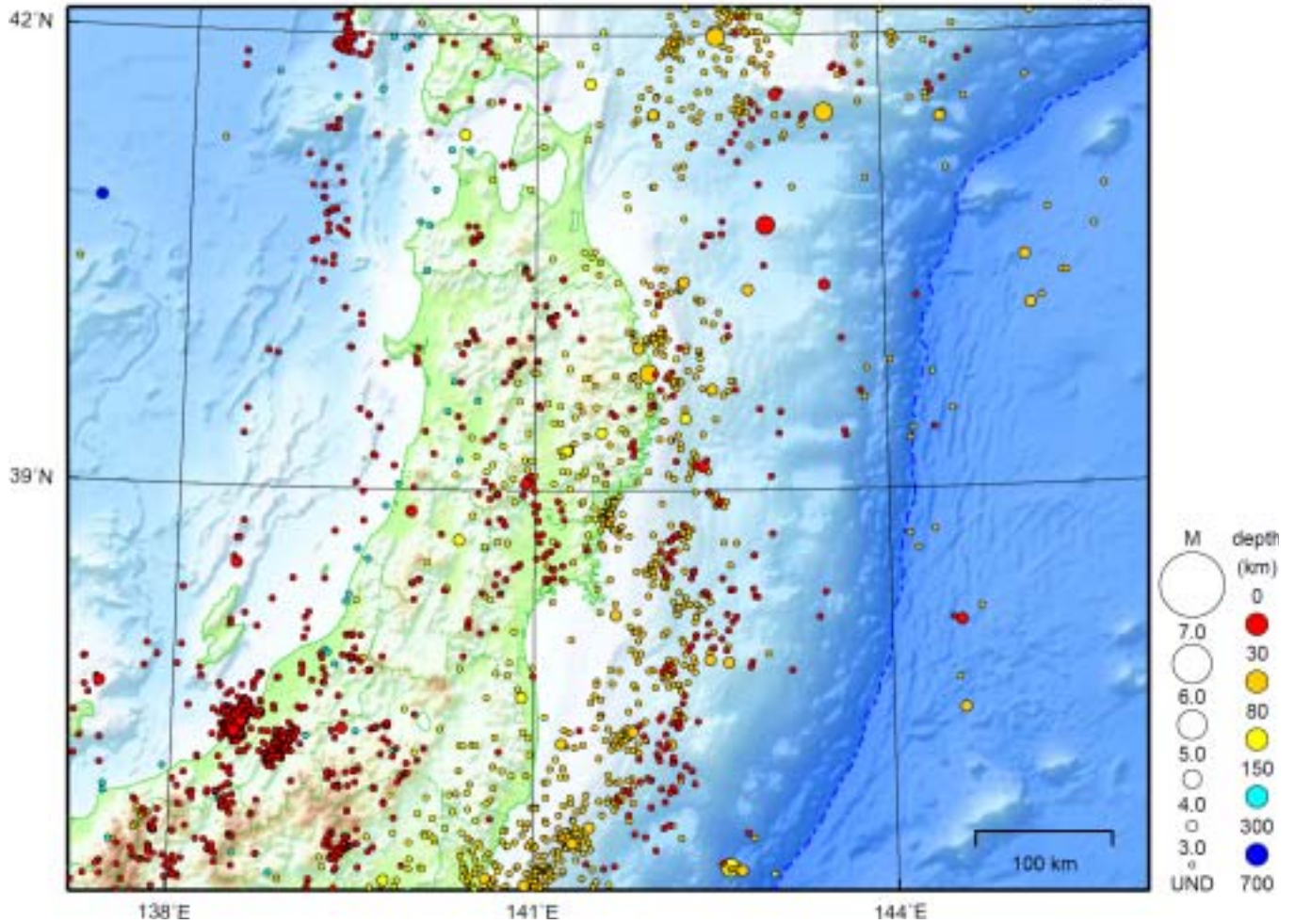
領域 b 内の地震活動経過図



東北地方

2007/09/01 00:00 ~ 2007/09/30 24:00

N=2548



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

特に目立った活動はなかった。

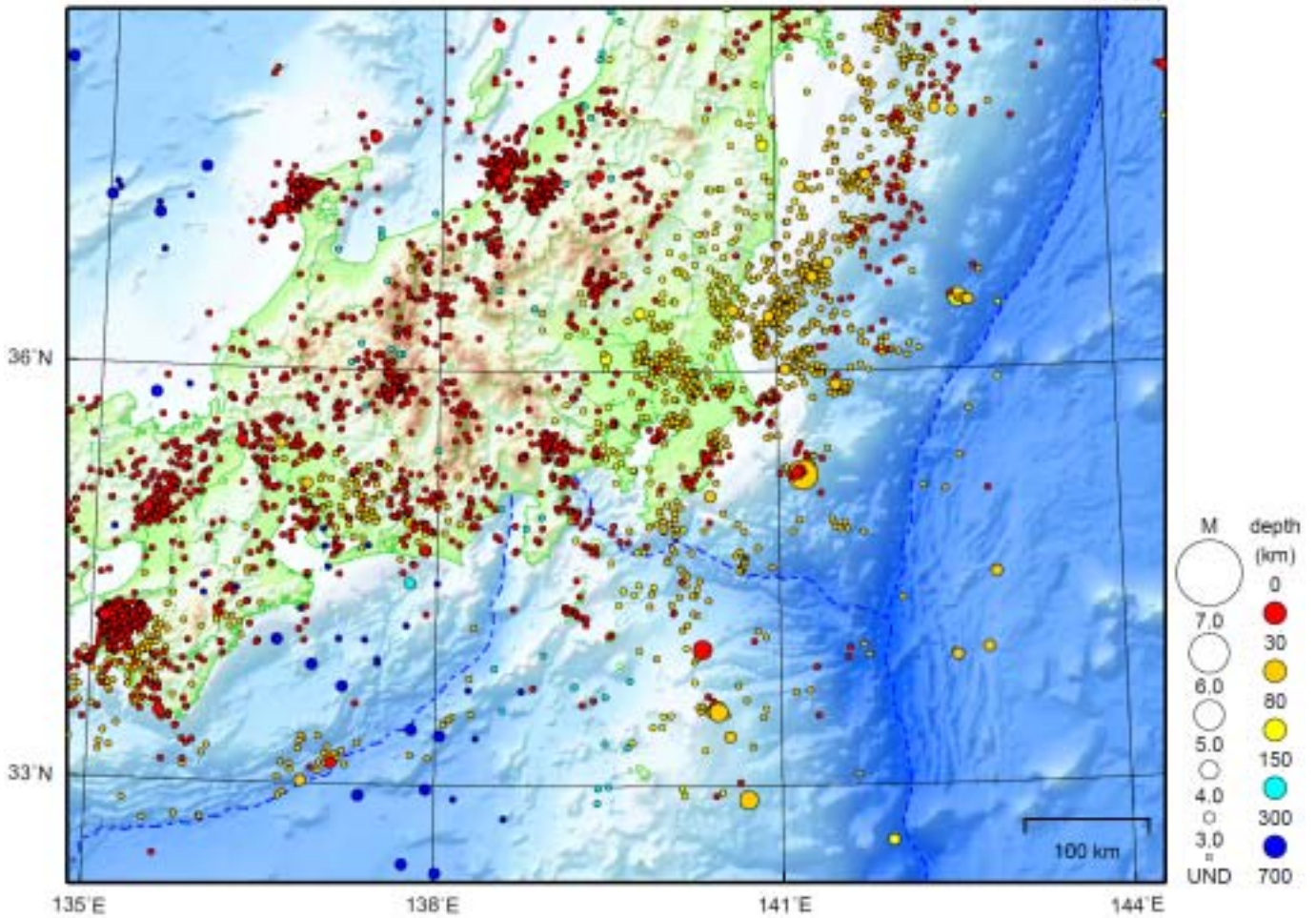
〔上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上のいずれかに該当する地震。〕

気象庁・文部科学省

関東・中部地方

2007/09/01 00:00 ~ 2007/09/30 24:00

N=5003



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

特に目立った活動はなかった。

(上記期間外)

10月1日に神奈川県西部で M4.9 (最大震度 5 強) の地震があった。

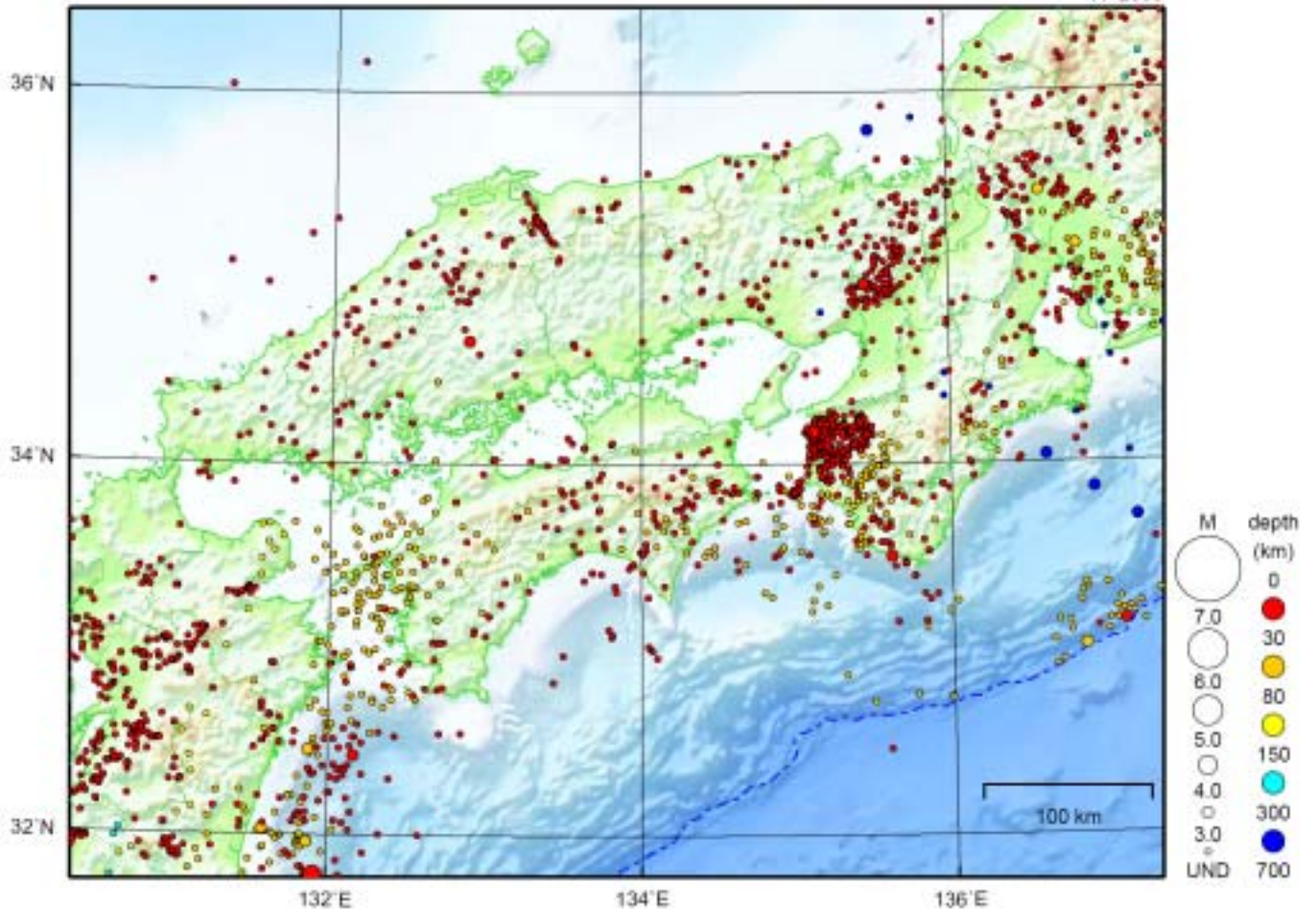
[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上のいずれかに該当する地震。]

気象庁・文部科学省

近畿・中国・四国地方

2007/09/01 00:00 ~ 2007/09/30 24:00

N=2853



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

特に目立った活動はなかった。

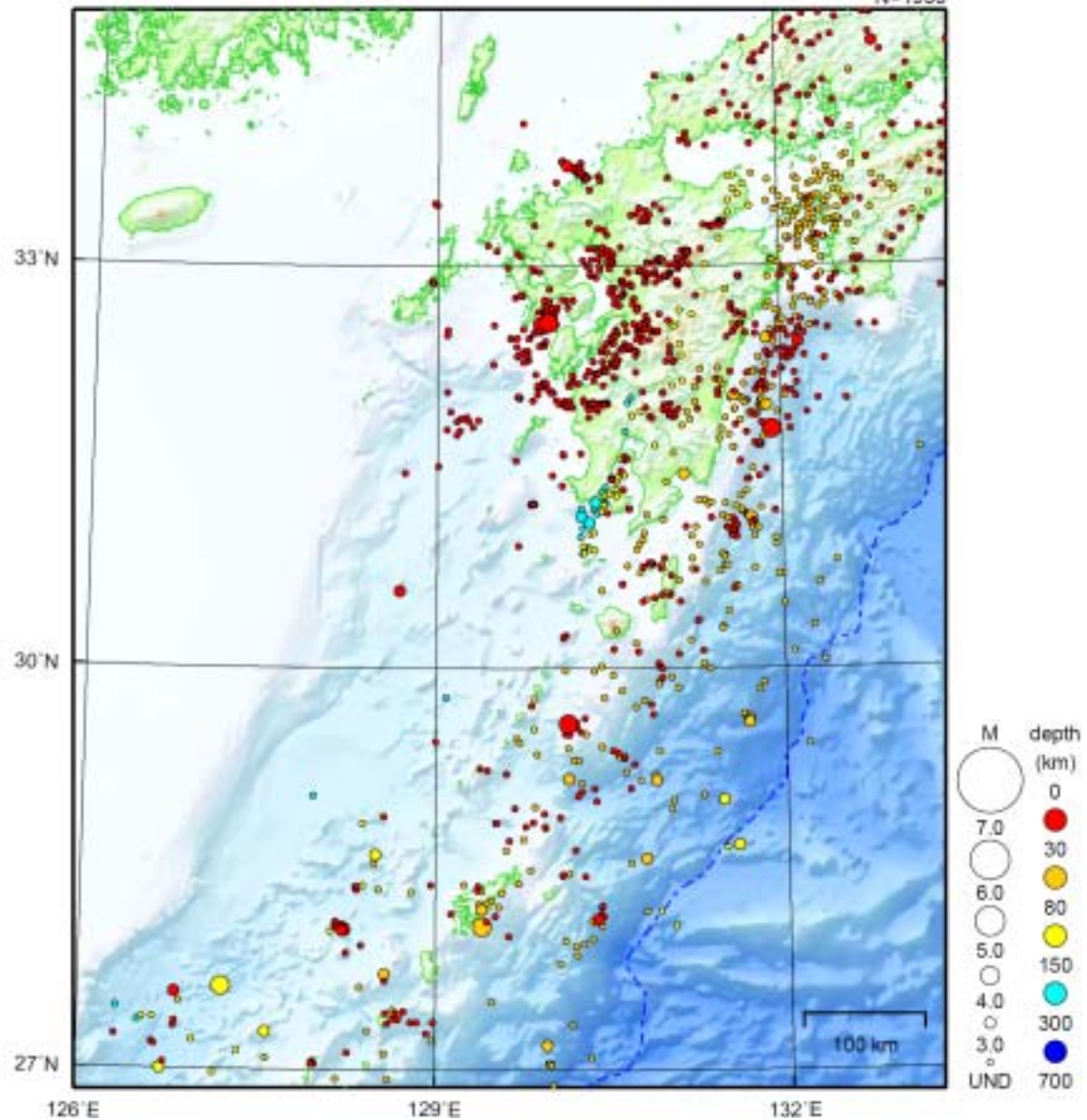
[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上のいずれかに該当する地震。]

気象庁・文部科学省

九州地方

2007/09/01 00:00 ~ 2007/09/30 24:00

N=1953



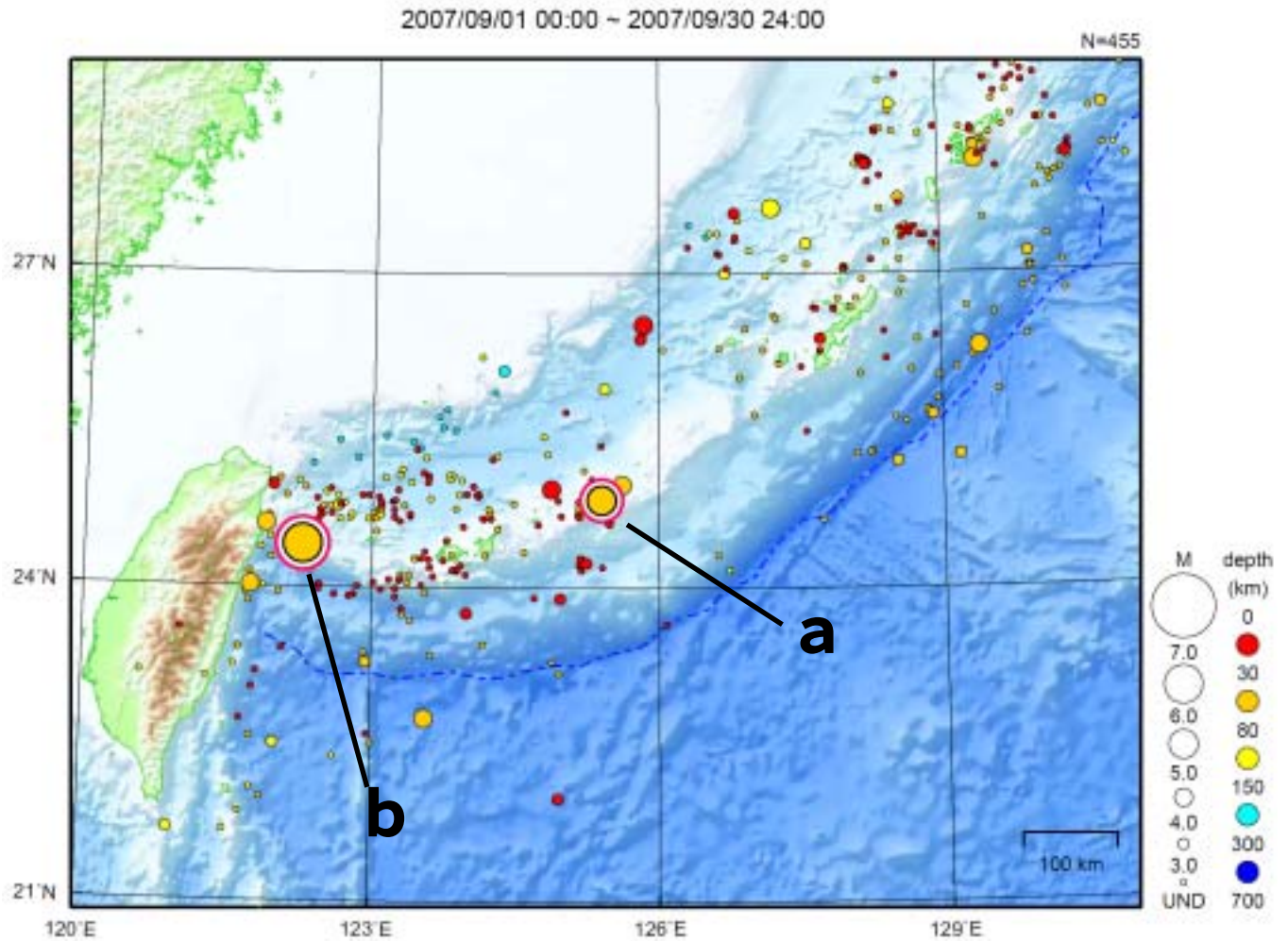
地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

特に目立った活動はなかった。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上のいずれかに該当する地震。]

気象庁・文部科学省

沖縄地方



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

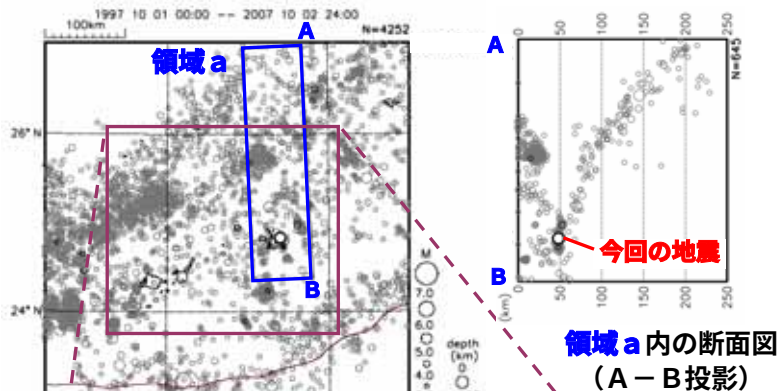
- a) 9月22日に宮古島近海で M5.1 (最大震度 3) の地震があった。
- b) 9月7日に台湾付近で M6.6 (最大震度 3) の地震があった。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上のいずれかに該当する地震。]

気象庁・文部科学省

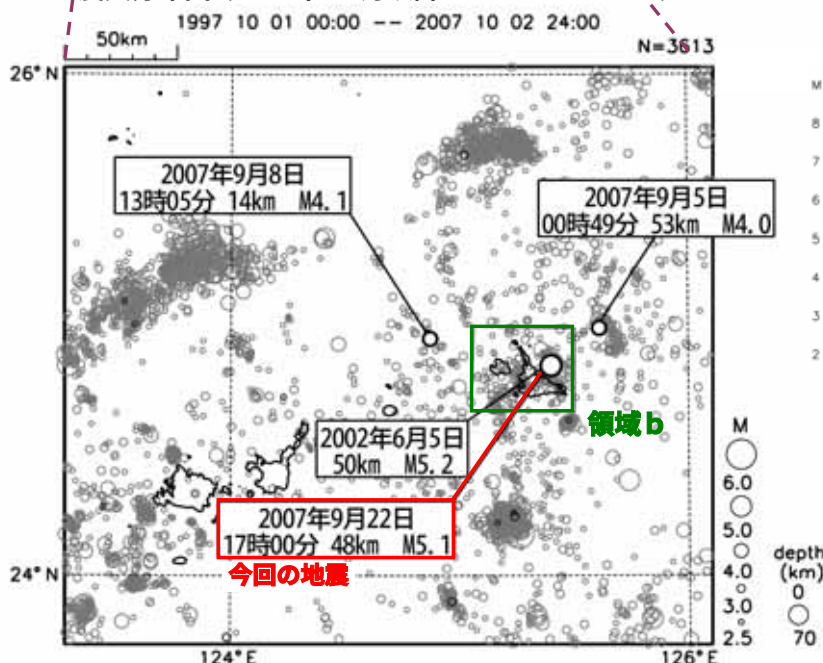
9月22日 宮古島近海の地震

震央分布図 (1997 年 10 月以降、 $M \geq 3.0$ 、0~250km)

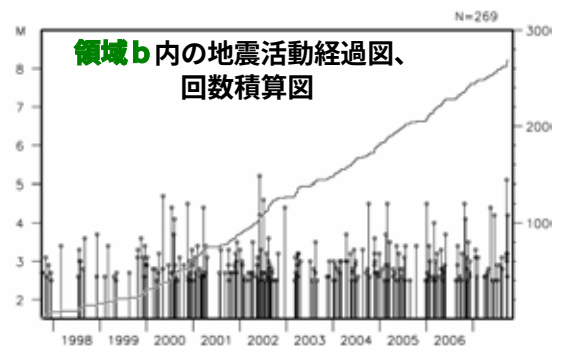


2007 年 9 月 22 日 17 時 00 分に宮古島近海の深さ 48km で $M5.1$ (最大震度 3) の地震が発生した。この地震はフィリピン海プレートの沈み込みに伴う地震と考えられる。宮古島付近では $M5$ 前後の地震が時々発生しており、2002 年 6 月 5 日にも今回の地震とほぼ同じ場所で $M5.2$ の地震が発生している。

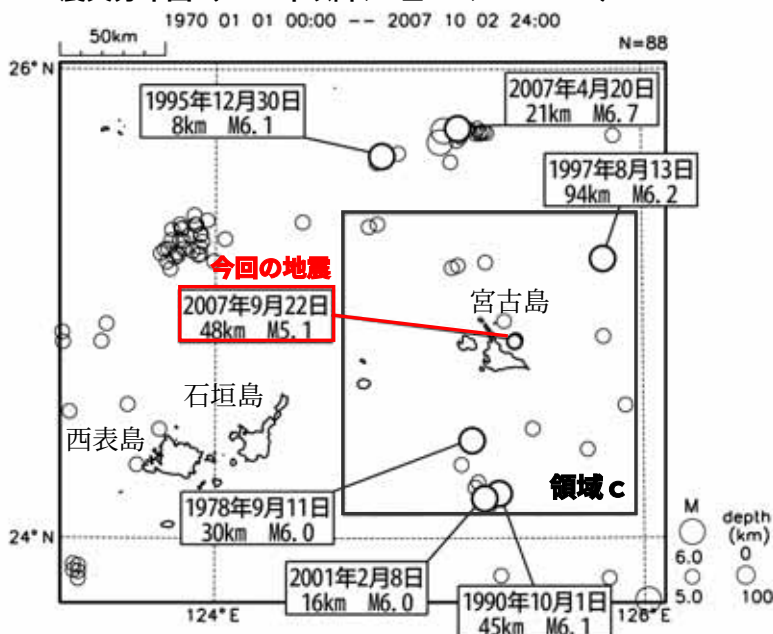
震央分布図 (1997 年 10 月以降、 $M \geq 2.5$ 、0~70km)



領域b内の地震活動経過図、回数積算図

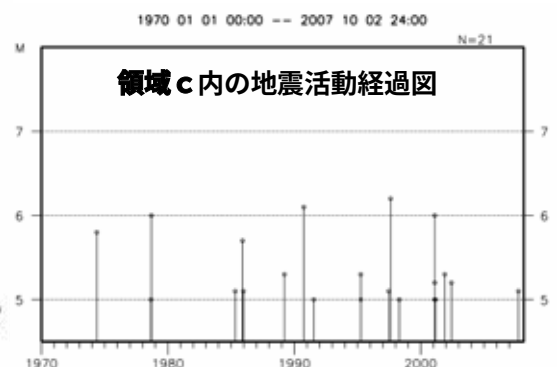


震央分布図 (1970 年以降、 $M \geq 5.0$ 、0~100km)



1970 年以降の活動をみると宮古島付近では $M6.0$ 以上の地震が時々発生しているが、宮古島近傍には $M6.0$ 以上の地震は観測されていない。

領域c内の地震活動経過図

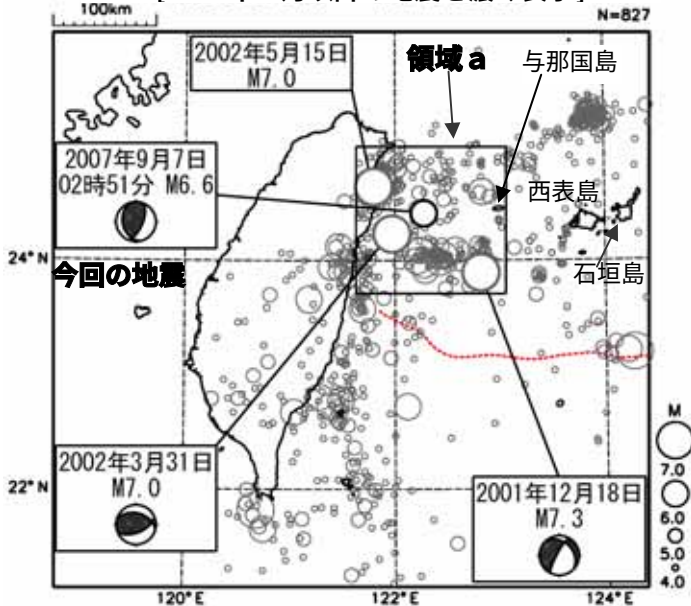


9月7日 台湾付近の地震

A

震央分布図

(2000年1月以降、 $M \geq 4.0$ 、深さ150km以浅)
[2007年8月以降の地震を濃く表示]

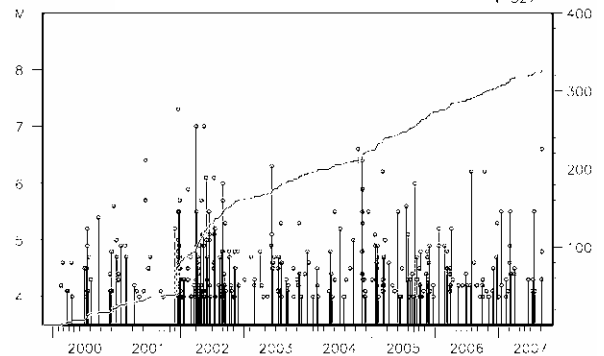


※発震機構は CMT 解

2007年9月7日02時51分に台湾付近で $M 6.6$ （日本国内で最大震度3）の地震が発生した。発震機構（CMT 解）は東西方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。この地震の直後に $M 4.8$ （最大震度1）の地震が発生したものの、余震活動は2日程度でほぼ収まった。

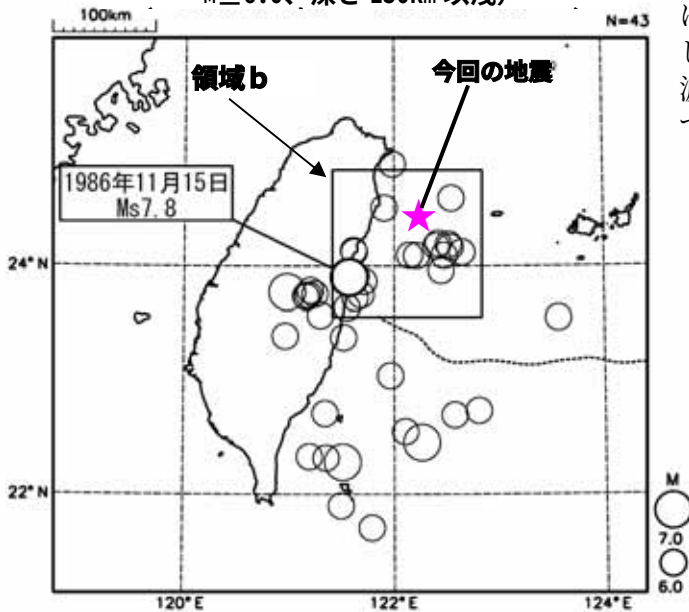
2000年以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近は地震活動が活発なところで、 $M 6$ を超える地震がたびたび発生しており、2001年12月18日に $M 7.3$ （国内で最大震度4、与那国島久部良で津波の最大の高さ12cmを観測）など、 $M 7$ を超える地震が3回発生している（**A**）。

領域a内の地震活動経過図



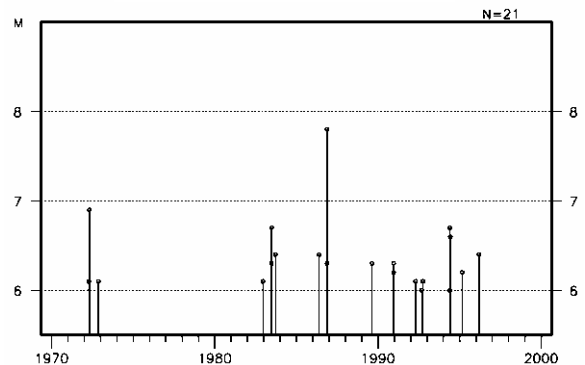
B

震央分布図（震源は USGS による）
(1970年1月1日～1999年12月31日、 $M \geq 6.0$ 、深さ150km以浅)



1970年以降の活動を見ると、この付近では1986年11月15日に $M_s 7.8$ （米国地質調査所による表面波マグニチュード、）の地震が発生し、日本国内で最大震度3、宮古島平良で津波の最大の高さ30cmを観測した。また、現地では死者13名の被害を生じた（被害は宇津の「世界の被害地震の表」による）（**B**）。

領域b内の地震活動経過図



●東海地震の想定震源域及びその周辺の地震活動

[概況]

21日に静岡県西部の地殻内でM3.9（最大震度2）の地震が発生した。

9月26日から10月2日にかけて、長野県南部～愛知県東部で深部低周波地震活動があり短期的スロースリップ（ゆっくり滑り）の発生が観測された。

[地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会検討結果]

9月25日に気象庁において第256回地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会（定例会）を開催し、気象庁は「最近の東海地域とその周辺の地震・地殻活動」として次のコメントを発表した（図5～図6）。

現在のところ、東海地震に直ちに結びつくような変化は観測されていません。

全般的には顕著な地震活動はありません。静岡県中部ではプレート内で通常より活動レベルが低く、地殻内ではやや高い状態になっていますが、その他の地域では概ね平常レベルです。

東海地域及びその周辺の地殻変動には注目すべき特別な変化は観測されていません。

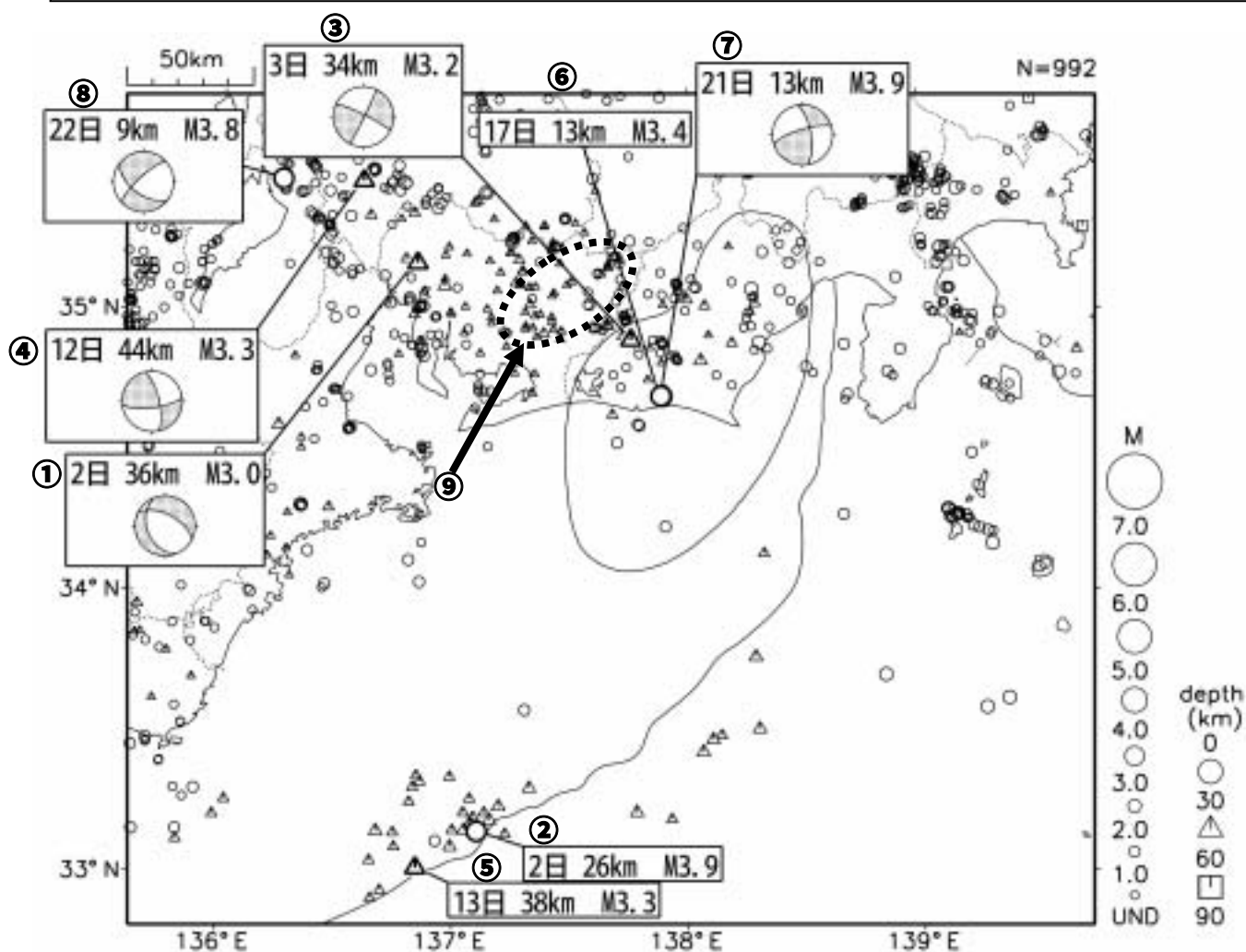


図1 震央分布図（2007年9月1日～30日：深さ90km以浅、Mすべて。M3.0以上の地震に「日、深さ、M」を付けた。すぐ下の図はP波初動による発震機構（下半球投影）。図中のナス型の領域は東海地震の想定震源域。）

① 2日09時51分、愛知県西部の深さ36kmでM3.0の地震が発生した。発震機構は北東－南西方向に張力軸を持つ正断層型で、フィリピン海プレート内で発生した地震である。

② 2日15時39分、三重県南東沖の深さ26kmでM3.9の地震が発生した。
③ 3日14時17分、静岡県西部の深さ34kmでM3.2の地震があり、最大震度1を観測した。発震

機構は東北東－西南西方向に張力軸を持つ横ずれ断層型で、フィリピン海プレート内で発生した地震である。

- ④ 12 日 21 時 59 分、岐阜県美濃中西部の深さ 44km で M3.3 の地震があり、最大震度 2 を観測した。発震機構は北西－南東方向に張力軸を持つ横ずれ断層型で、フィリピン海プレート内で発生した地震である。
- ⑤ 13 日 19 時 19 分、三重県南東沖の深さ 38km で M3.3 の地震が発生した。
- ⑥ 17 日 14 時 57 分、静岡県西部の深さ 13km で M3.4 の地震があり、最大震度 2 を観測した。陸域の地殻内で発生した地震である。
- ⑦ 21 日 13 時 21 分、静岡県西部の深さ 13km で M3.9 の地震があり、最大震度 2 を観測した。発震機構は西北西－東南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型で、陸域の地殻内で発生した地震である。

- ⑧ 22 日 11 時 44 分、滋賀県北部の深さ 9km で M3.8 の地震があり、最大震度 2 を観測した。発震機構は東西方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型で、陸域の地殻内で発生した地震である。
- ⑨ 9 月 26 日から 10 月 2 日にかけて、長野県南部から愛知県東部にかけてのプレート境界の短期的なゆっくり滑りに起因すると見られる、歪変化と深部低周波地震活動が観測された。同様の現象は 2007 年 6 月にも観測されている（平成 19 年 6 月地震・火山月報（防災編）を参照。この現象の詳細については平成 17 年 7 月地震・火山月報（防災編）を参照。）

注：本文中の番号は、図 1 中の数字に対応する。

[東海地域の地震活動の頁で使われる用語]

・「想定震源域」(図 1) と「固着域」(図 5)

東海地震発生時には、「固着域」(プレート間が強く「くっついている」と考えられている領域)あるいはその周辺の一部からゆっくりしたずれ(前兆すべり)が始まり、最終的には「想定震源域」全体が破壊すると考えられている。

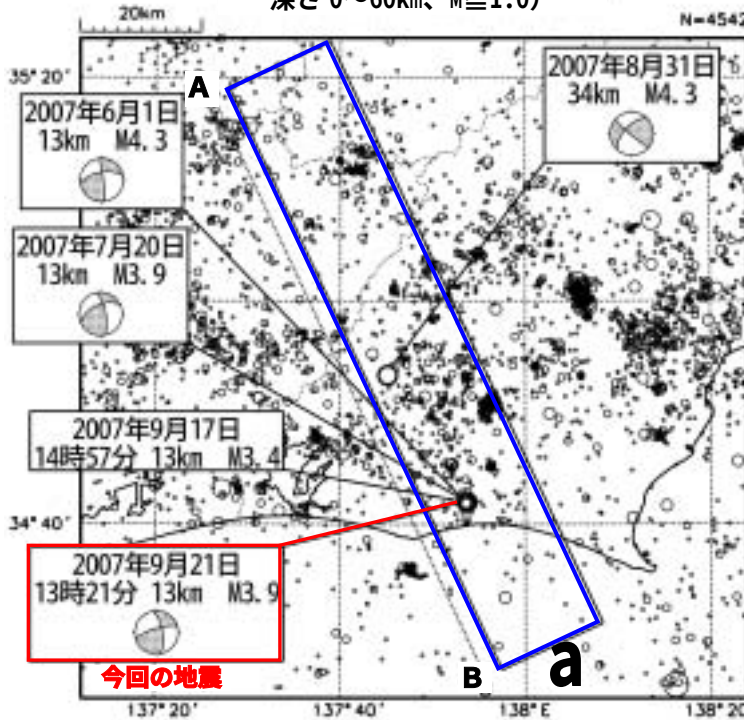
・「クラスタ除去」(図 5 と図 6)

地震は時間空間的に群(クラスタ: cluster)をなして起きることが多くある。「本震とその後に起きる余震」、「群発地震」などが典型的な群(クラスタ)で、余震活動等の影響を取り除いて地震活動全体の推移を見ることを「クラスタ除去」と言う。震央距離が 3 km 以内、発生時間差が 7 日以内の地震をクラスタと見なし、最大地震で代表させている。

大規模な地震から国民の生命・財産を保護することを目的として、昭和 53 年(1978 年)12 月に施行された「大規模地震対策特別措置法」では、大規模な地震の発生のおそれがあり、その地震によって大きな被害が予想されるような地域をあらかじめ「地震防災対策強化地域(以下、「強化地域」という。))として指定し、地震予知のための観測施設の整備を強化し、あらかじめ地震防災に関する計画をたてる等、各種の措置を講じることとしている。強化地域は平成 14 年(2002 年)4 月に見直しが行われ、現在、静岡県全域と東京都、神奈川・山梨・長野・岐阜・愛知及び三重の各県にまたがる 173 市町村(平成 19 年 4 月現在)が強化地域に指定されている。強化地域では、マグニチュード 8 クラスと想定されている大地震(東海地震)が起こった場合、震度 6 弱以上(一部地域では震度 5 強程度)になり、沿岸では大津波の来襲が予想されている。気象庁では東海地震の直前の前兆現象を捕らえるため、地震、地殻変動等の観測データを常時監視している。

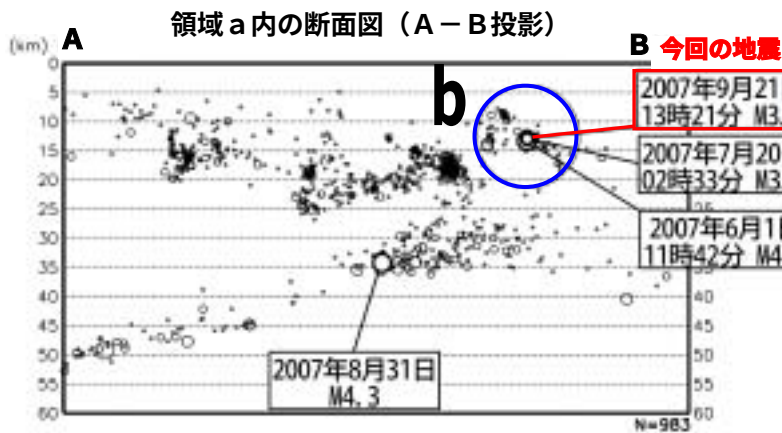
9月21日 静岡県西部の地震

震央分布図（1997年10月1日～2007年9月30日、
深さ 0～60km、 $M \geq 1.0$ ）

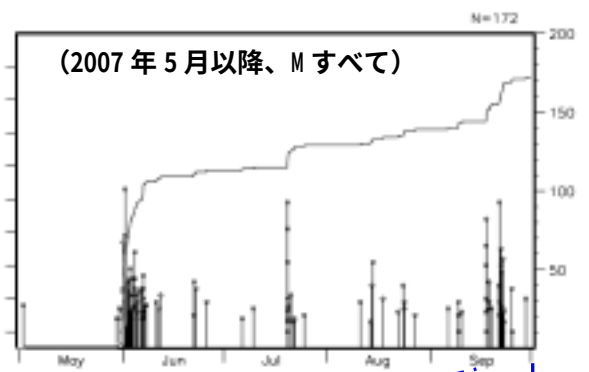


2007年9月21日13時21分に静岡県西部の深さ13kmで $M3.9$ （最大震度2）の地震が発生した。発震機構は西北西－東南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型で、地殻内で発生した地震である。

今回の地震の震源付近では、2007年6月1日に $M4.3$ （最大震度4）、7月20日に $M3.9$ （最大震度2）の地震が発生している。今回の地震の数日前からも17日14時57分に発生した $M3.4$ （最大震度2）の地震を最大とする活動が見られていた。



領域b内の地震活動経過図、回数積算図



領域b内のM-T図、回数積算図

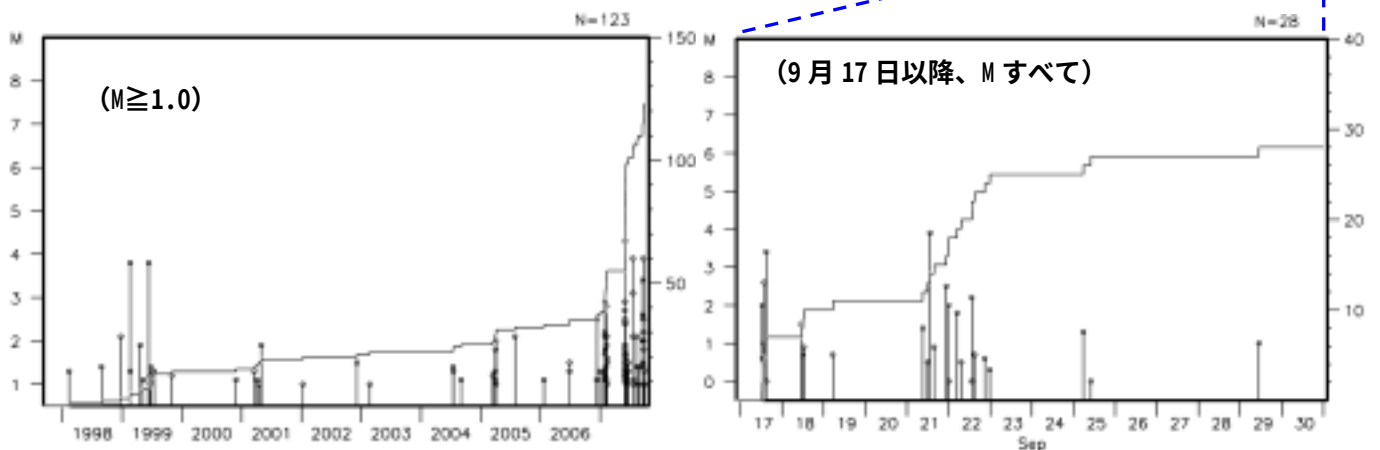
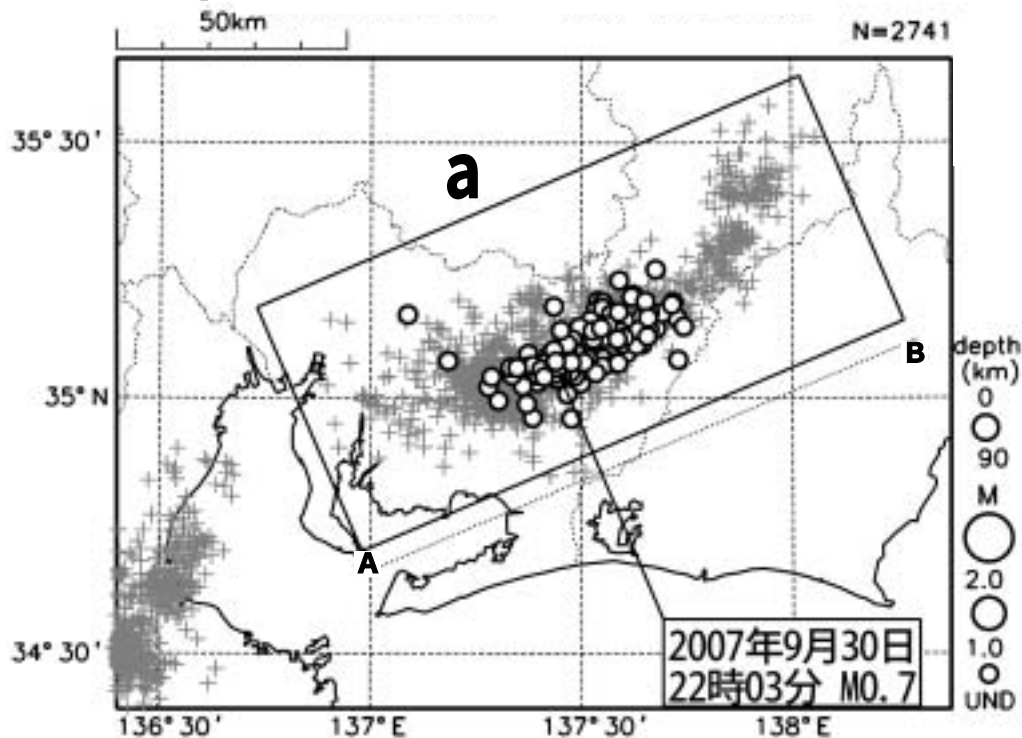


図2 静岡県西部の地震

2007 年 9 月・10 月 長野県南部－愛知県東部の低周波地震活動

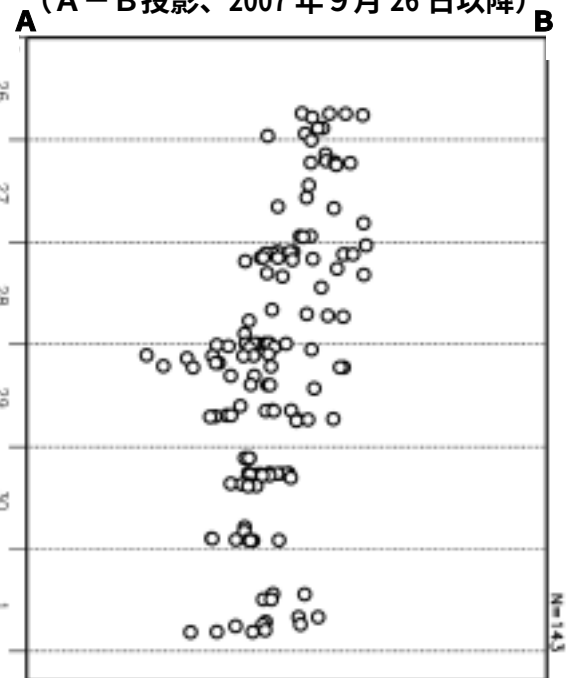
震央分布図

(低周波地震のみ、1999 年 9 月 1 日～2007 年 10 月 2 日 07 時、M すべて)
[2007 年 9 月 26 日以降の地震を○で表示している。]

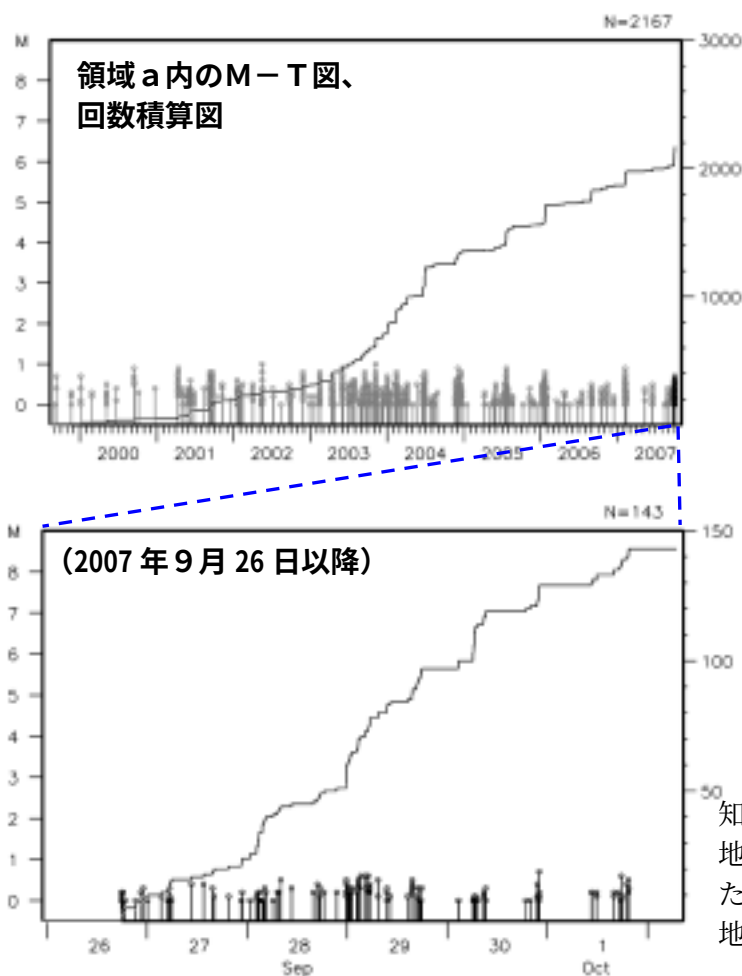


領域 a 内の時空間分布図

(A－B 投影、2007 年 9 月 26 日以降)



領域 a 内の M－T 図、回数積算図



(2007 年 9 月 26 日以降)

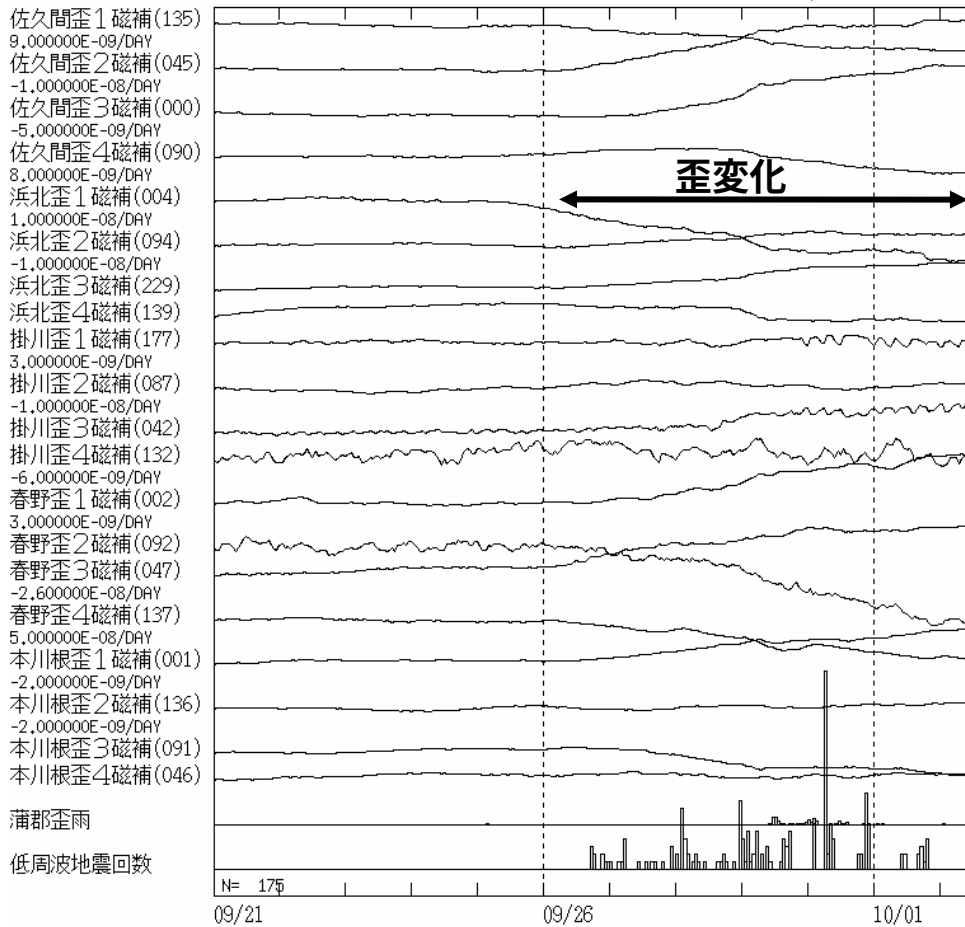
2007 年 9 月 26 日 17 時頃より、長野県南部から愛知県東部にかけて低周波地震が観測された。低周波地震は、29 日にかけて南西に移動するように発生した。最大は 9 月 30 日 22 時 03 分に発生した M0.7 の地震であった。

図 3 長野県南部－愛知県東部の低周波地震活動

2007年9月26日からの低周波地震活動と同期した歪計の変化および推定される滑り候補点

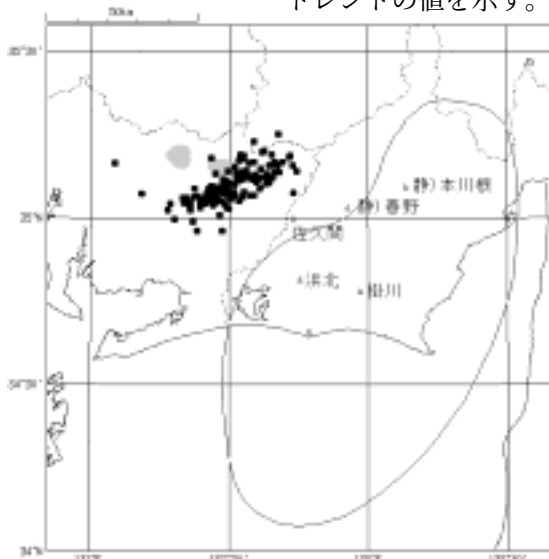
2007/09/21 00:00 -- 2007/10/02 12:00

5.0x10⁻⁸ strain
伸び 60mm/1時間 (降水量)
10回/1時間 (地震回数)



2007年9月21日から10月2日12時にかけての歪計の時系列図

気圧、潮汐、時期補正を行ったデータを使用。観測点名下の数値は除去した長期トレンドの値を示す。春野、本川根は静岡県整備の観測点である。



今回の歪変化より推定される滑り候補点

黒丸（●）は、2007年9月26日から10月1日24時までに発生した低周波地震の震源を示す。また、灰色の領域は、推定される滑りの候補点の位置を示す。

佐久間、浜北、掛川、春野（静岡県整備）、本川根（静岡県整備）の歪計において、9月26日から10月2日にかけて、低周波地震活動と同期した変化が認められた。歪変化は9月29日に入ってから急になったが、その後は落ち着いた。なお、9月29日から9月30日にかけては降水があった。

歪計に現れた変化量（9月26日朝～10月2日12時頃）を元に滑りの候補点を推定したところ、低周波地震の発生している領域と重なった。滑りの規模はM_w（モーメントマグニチュード）に換算して5.6～5.7である。

図4 2007年9月26日からの低周波地震活動と同期した歪計の変化および推定される滑り候補点

東海地域の地震活動指数 (クラスタを除いた地震回数による)

2007年9月19日 現在

	① 固着域		② 愛知県		③ 浜名湖			④ 駿河湾
	地殻内	フィリ ピン海 プレート	地殻内	フィリ ピン海 プレート	フィリピン海プレート内			全域
					西側	全域	東側	
短期活動指数	5	5	4	1	3	4	6	2
短期地震回数 (平均)	7 (6.31)	7 (5.90)	14 (13.23)	7 (14.08)	1 (2.46)	6 (5.91)	5 (3.45)	2 (6.06)
中期活動指数	8	6	6	4	1	3	5	1
中期地震回数 (平均)	30 (18.93)	24 (17.69)	48 (39.68)	41 (42.24)	1 (4.93)	9 (11.82)	8 (6.90)	6 (12.12)

* Mしきい値：

M $\geq$ 1.1：固着域、愛知県、浜名湖、M $\geq$ 1.4：駿河湾

* クラスタ除去：

震央距離が Δr 以内、発生時間差が Δt 以内の地震をグループ化し、最大地震で代表させる。

$\Delta r=3\text{km}$ 、 $\Delta t=7$ 日：固着域、愛知県、浜名湖

$\Delta r=10\text{km}$ 、 $\Delta t=10$ 日：駿河湾

* 対象期間：

短期：30日間（固着域、愛知県）、90日間（浜名湖、駿河湾）

中期：90日間（固着域、愛知県）、180日間（浜名湖、駿河湾）

* 基準期間：

1997年－2001年（5年間）：固着域、愛知県、1998年－2000年（3年間）：浜名湖

1991年－2000年（10年間）：駿河湾

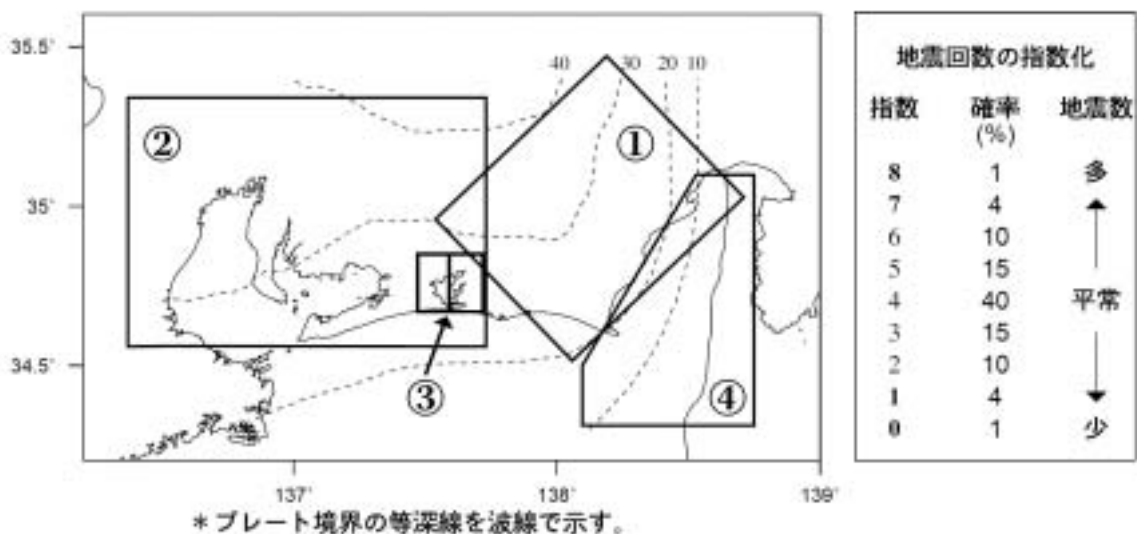


図5 東海地域の地震活動指数

浜名湖は活動指数の低い状態が継続していたが、先々月ごろから東側のみ回復傾向である（今期はほぼ平常の6～5）。固着域の地殻内は活動指数が高い。それ以外の地域は、愛知県プレート内と駿河湾がやや低かった他は、ほぼ平常の活動であった。

浜名湖（フィリピン海プレート内）

1995/ 1/ 1~2007/ 9/19 M $\geq$ 1.1 ＊クラスタ除去したデータ

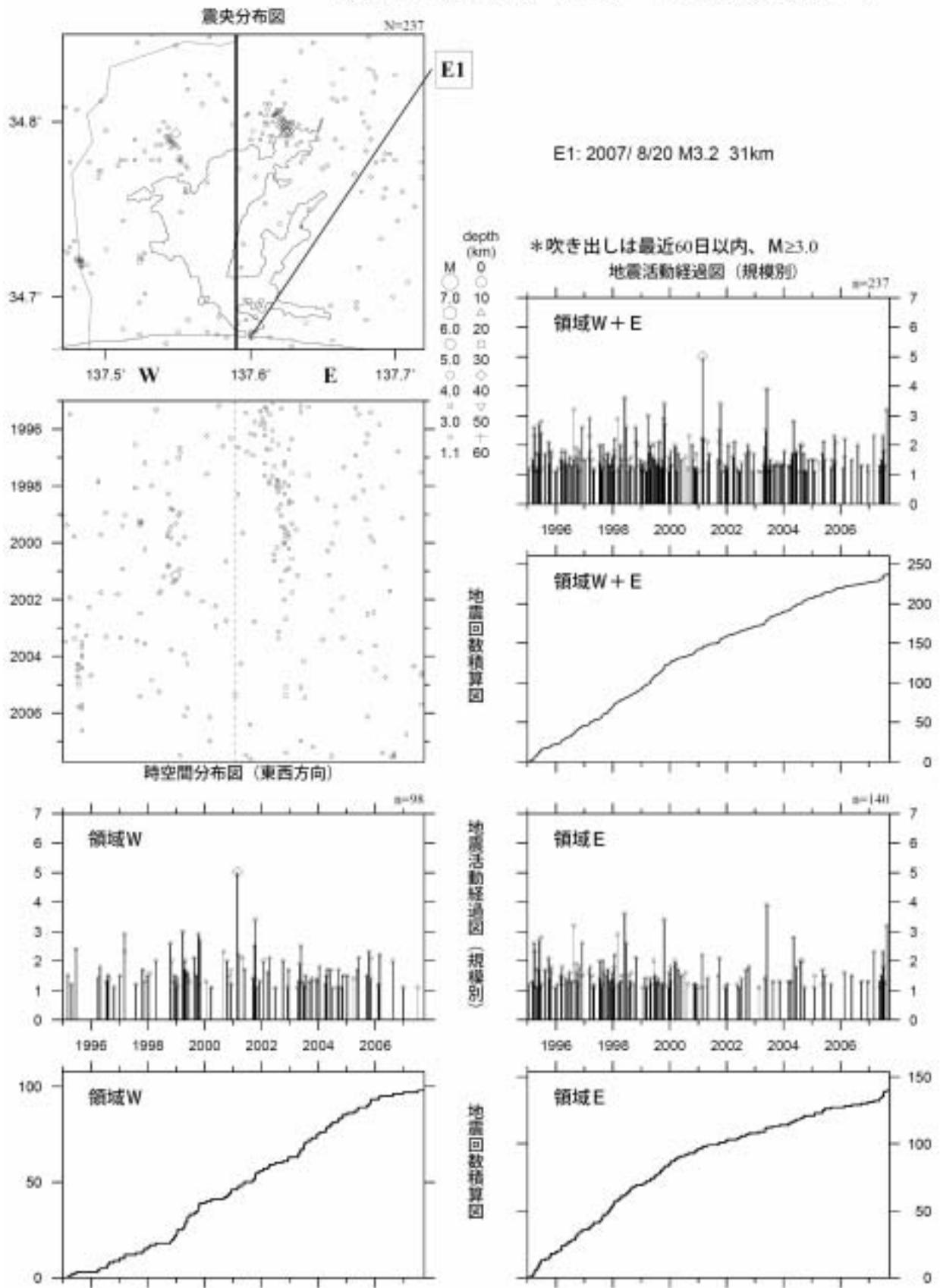


図6 浜名湖付近のフィリピン海プレート内の地震活動

領域Eでは2000年終わりごろからの活動の低下が継続していた中、最近90日間で5回地震が発生し、活動が回復傾向である。8月20日には浜名湖の南でM3.2の地震が発生している。領域Wは2006年以降、活動が低下した状況である。

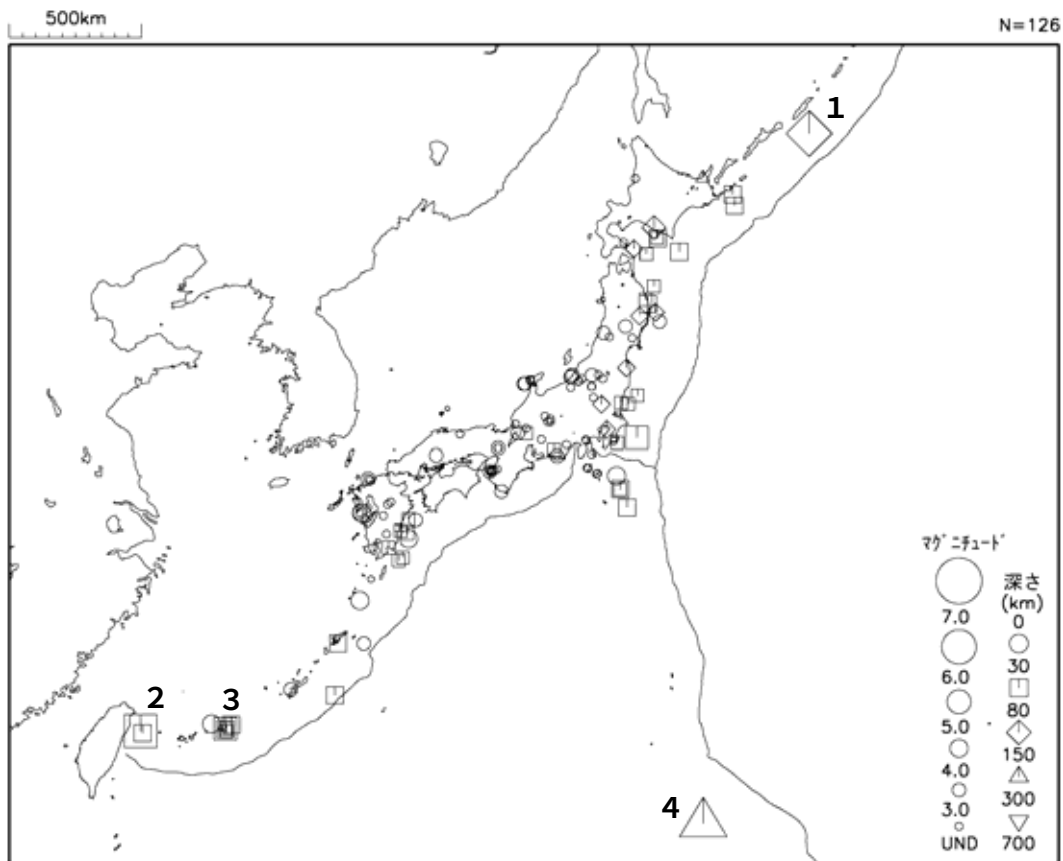


図1 2007年9月に震度1以上を観測した地震
(図中の番号は、別紙1の表のNoに対応する地震)

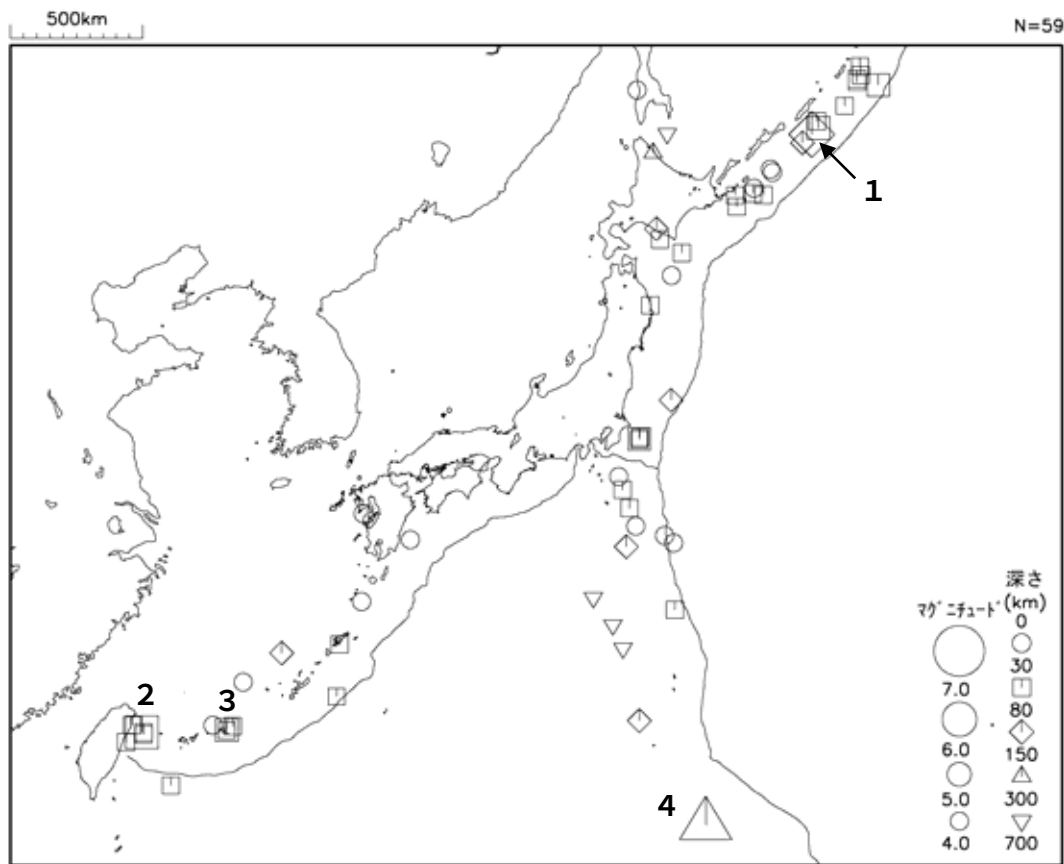


図2 2007年9月に発生したM4.0以上の地震
(図中の番号は、別紙1の表のNoに対応する地震)

総数：9,182

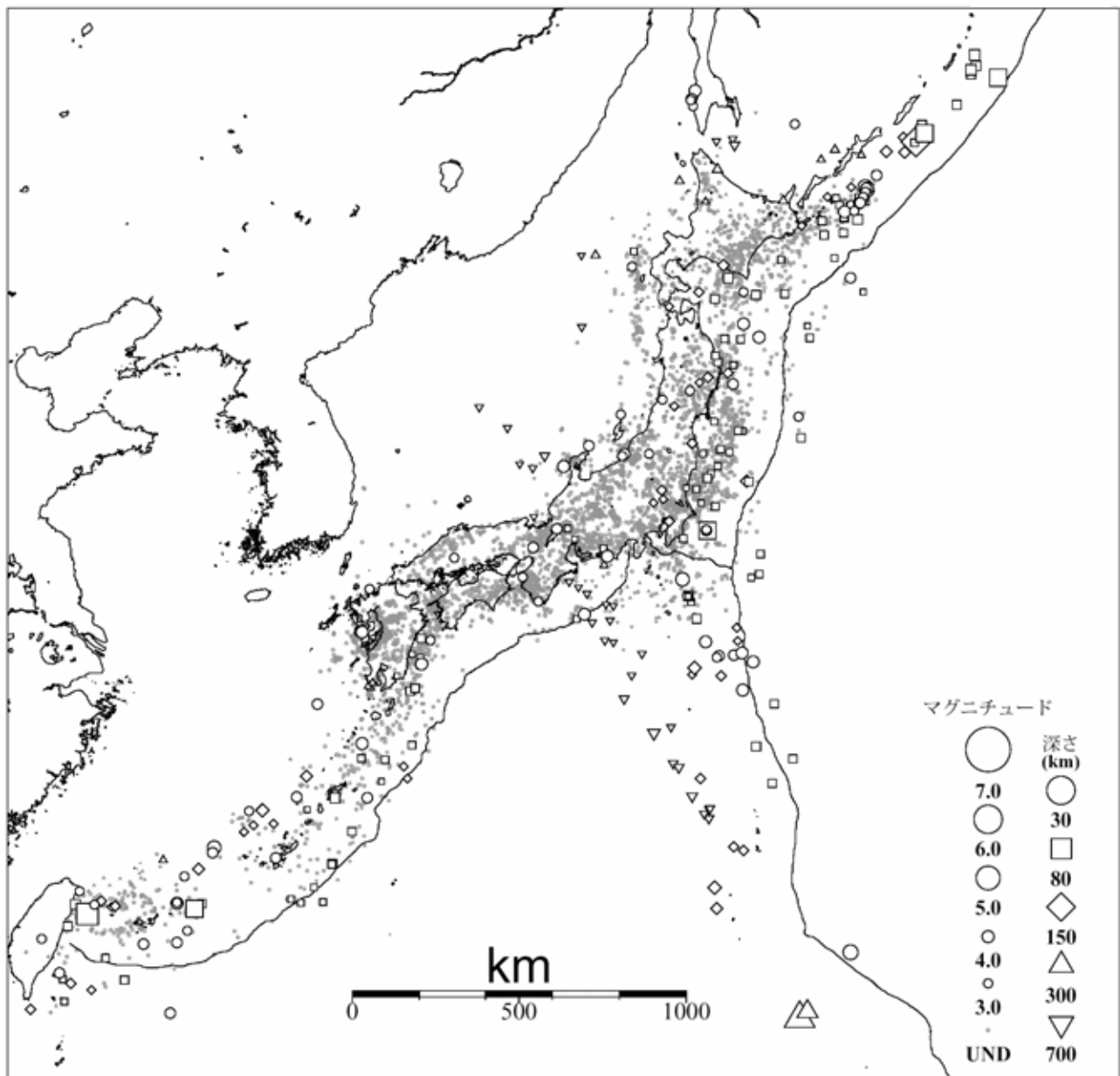


図3 気象庁が震源を決定した日本付近の2007年9月の地震の震央分布
(M3.0以上の地震については白抜きで示す)

● 表1．過去1年間に震度1以上を観測した地震の最大震度別の月別回数
 ＜平成18年（2006年）9月～平成19年（2007年）9月＞

	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7	計	記事
2007年9月	99	21	6							126	
2007年8月	107	35	23	4	1					170	平成19年(2007年)新潟県中越沖地震の余震 (震度3：1回、震度2：5回、震度1：13回) 九十九里浜付近の地震活動 (震度5弱：1回、震度4：3回、 震度3：7回、震度2：7回、震度1：10回)
2007年7月	169	83	24	7			1	1		285	平成19年(2007年)新潟県中越沖地震とその余震 (震度6強：1回、震度6弱：1回、 震度4：5回、震度3：11回、 震度2：49回、震度1：71回) 伊豆大島近海(震度3：5回、 震度2：6回、震度1：25回)
2007年6月	126	47	13	9						195	大分県中部(震度4：3回、震度3：6回、 震度2：16回、震度1：39回) 平成19年(2007年)能登半島地震の余震 (震度4：1回、震度3：1回、 震度2：3回、震度1：6回)
2007年5月	92	37	10	3						142	平成19年(2007年)能登半島地震の余震 (震度4：1回、震度2：9回、 震度1：20回)
2007年4月	135	47	23	7		1				213	15日 三重県中部(震度5強) 平成19年(2007年)能登半島地震の余震 (震度4：1回、震度3：7回、 震度2：20回、震度1：66回)
2007年3月	280	105	35	8	3			1		432	平成19年(2007年)能登半島地震とその余震 (震度6強：1回、震度5弱：3回、 震度4：6回、震度3：25回、 震度2：74回、震度1：213回)
2007年2月	62	21	3	1						87	
2007年1月	63	28	10	1						102	新島・神津島近海 (震度2：3回、震度1：11回)
2006年12月	82	46	14	3						145	新島・神津島近海(震度4：1回、 震度3：6回、震度2：12回、 震度1：14回)
2006年11月	98	22	11	4						135	新島・神津島近海 (震度3：2回、震度2：2回、 震度1：8回)
2006年10月	73	23	5	1						102	
2006年9月	64	21	11	1						97	
2007年計	1133	424	147	40	4	1	1	2		1752	(平成19年1月～平成19年9月)
過去1年計	1386	515	177	48	4	1	1	2		2134	(平成18年10月～平成19年9月)

注)①「記事」欄の「*」は関連の地震で震度1以上を観測した地震の回数。「記事」欄には主に震度5弱以上を観測した地震、または震度1以上を10回以上観測した地震活動について記載した。

②地方公共団体等の震度計による震度の発表開始年月日。

平成9(1997)年11月10日 秋田県、埼玉県、横浜市(神奈川県)、新潟県、愛知県、大阪府、奈良県、和歌山県、岡山県、山口県
 平成10(1998)年6月15日 群馬県、福井県、静岡県、三重県、島根県、愛媛県
 10月15日 青森県、山形県、茨城県、石川県、京都府、兵庫県、鳥取県、広島県、徳島県、熊本県、
 宮崎県、鹿児島県
 平成11(1999)年7月21日 東京都、長野県
 平成12(2000)年1月12日 栃木県、千葉県、岐阜県、名古屋市(愛知県)
 3月28日 滋賀県
 7月18日 富山県、香川県、大分県
 平成13(2001)年3月22日 佐賀県 5月10日 山梨県、川崎市(神奈川県)
 7月19日 高知県 12月12日 福島県
 平成14(2002)年3月20日 岩手県、宮城県、神奈川県、福岡県、仙台市(宮城県)
 7月29日 北海道、長崎県
 平成15(2003)年3月10日 沖縄県
 平成16(2004)年5月26日 独立行政法人防災科学技術研究所

● 表 2．日本及びその周辺におけるマグニチュード (M) 別の月別地震回数
 <平成 18 年 (2006 年) 9 月～平成 19 年 (2007 年) 9 月>

	M3.0 ～ M3.9	M4.0 ～ M4.9	M5.0 ～ M5.9	M6.0 ～ M6.9	M7.0 以上	計 M3.0以上	計 M4.0以上	記事
2007年 9 月	224	52	4	2	1	283	59	4 日：千島列島 (M6.3) 7 日：台湾付近 (M6.6) 28 日：マリアナ諸島 (M7.6)
2007年 8 月	404	104	18	3		529	125	1 日：沖縄本島北西沖 (M6.1) 2 日：サハリン西方沖 (M6.4) 7 日：沖縄本島北西沖 (M6.3)
2007年 7 月	349	76	14	3		442	93	9 日：千島列島東方 (M6.2) 16 日：平成 19 年 (2007 年) 新潟県中越沖地震 (M6.8) 16 日：京都府沖 (M6.7) 平成 19 年 (2007 年) 新潟県中越沖地震の余震活動 (M3.0～3.9：88 回、M4.0～4.9：12 回、 M5.0～5.9：1 回)
2007年 6 月	268	70	11			349	81	
2007年 5 月	264	70	11			345	81	平成 19 年 (2007 年) 能登半島地震の余震活動 (M3.0～3.9：20 回、M4.0～4.9：3 回)
2007年 4 月	374	110	33	3		520	146	20 日：宮古島北西沖 (M6.3, M6.7, M6.1) 平成 19 年 (2007 年) 能登半島地震の余震活動 (M3.0～3.9：55 回、M4.0～4.9：8 回)
2007年 3 月	474	106	13	3		596	122	8 日：鳥島近海 (M6.0) 9 日：日本海北部 (M6.2) 25 日：平成 19 年 (2007 年) 能登半島地震 (M6.9) 平成 19 年 (2007 年) 能登半島地震の余震活動 (M3.0～3.9：231 回、M4.0～4.9：29 回、 M5.0～5.9：3 回)
2007年 2 月	233	57	9	1		300	67	17 日：十勝沖 (M6.2)
2007年 1 月	244	113	24	2	2	385	141	13 日：千島列島東方 (M8.2) 14 日：千島列島東方 (M6.5) 25 日：台湾付近 (M6.1) 31 日：マリアナ諸島 (M7.1)
2006年12月	274	107	26	2	1	410	136	8 日：千島列島東方 (M6.4) 26 日：台湾付近 (M6.9, M7.2)
2006年11月	254	76	42	3	1	376	122	15 日：千島列島東方 (M7.9, M6.6) 16 日：千島列島東方 (M6.1) 18 日：奄美大島近海 (M6.0)
2006年10月	254	75	19	7		355	101	1 日：千島列島東方 (M6.8, M6.6) 9 日：台湾南方沖 (M6.1) 11 日：福島県沖 (M6.0) 12 日：与那国島近海 (M6.2) 13 日：千島列島東方 (M6.3) 24 日：鳥島近海 (M6.8)
2006年 9 月	268	62	10	1		341	73	28 日：千島列島東方 (M6.0)
2007年計	2834	758	137	17	3	3749	915	(平成 19 年 1 月～平成 19 年 9 月)
過去 1 年計	3616	1016	224	29	5	4890	1274	(平成 18 年 10 月～平成 19 年 9 月)

注) 日本及びその周辺：原則、北緯 20～49 度、東経 120～154 度の範囲。「記事」欄には主に M6.0 以上の地震について記載した。

●世界の主な地震

9月に世界で発生したマグニチュード(M) 6.0以上または被害を伴った地震の震央分布を図1に示す。また、その震源要素等を表1に示す。

2007年9月1日00時～9月30日24時(日本時間)

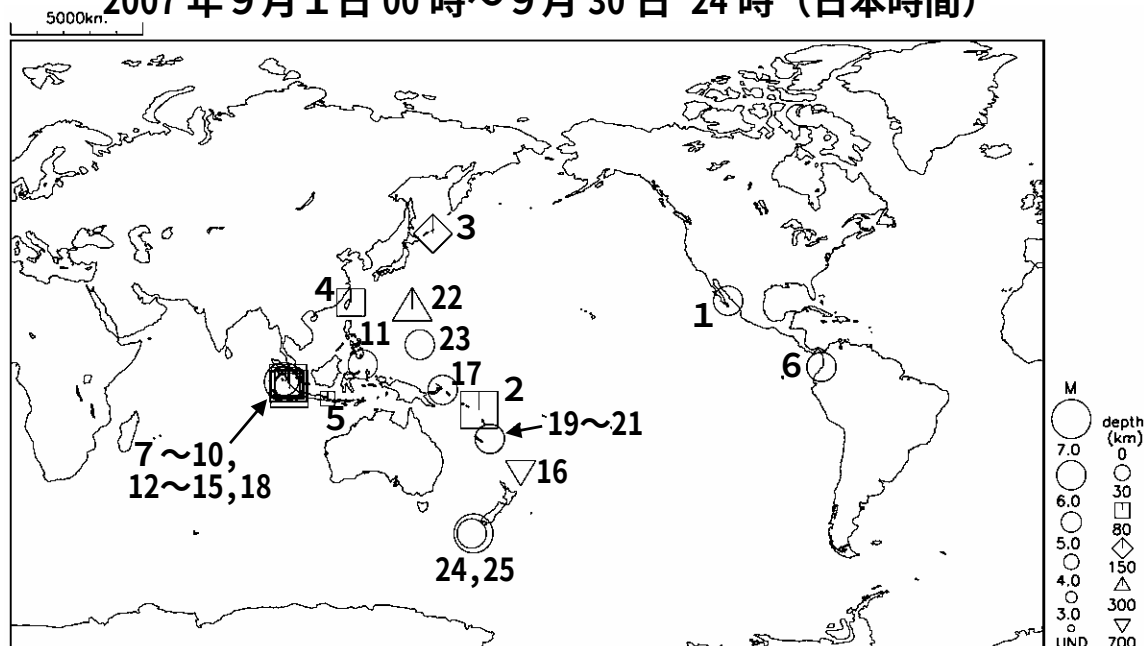


図1 2007年9月に世界で発生したM6.0以上または被害を伴った地震の震央分布

＜震源要素は米国地質調査所(USGS)発表の QUICK EPICENTER DETERMINATIONS(QED)による＞

* : 数字は、表1の番号に対応する。

** : マグニチュードは mb (実体波マグニチュード)、Ms (表面波マグニチュード)、Mw (モーメントマグニチュード) のいずれか大きい値を用いて表示している。

*** : 日本付近で発生した地震については、震源要素及びマグニチュードは気象庁による。

表1 2007年9月に世界で発生したマグニチュード6.0以上または被害を伴った地震の震源要素等

番号	月	日	時	緯度	経度	深さ (km)	mb	Ms	Mw	震央地名	備考(被害状況など)
1	09月	02日	04時14分	N24° 53.8'	W109° 41.1'	10	5.6	5.9	6.1	メキシコ、カリフォルニア湾	
2	09月	02日	10時05分	S11° 34.8'	E165° 46.2'	35			7.2	サンタクルーズ諸島	NWPTA発表
3	09月	04日	01時14分	N45° 01.1'	E150° 07.4'	126	6.2	(6.3)	6.2	千島列島	
4	09月	07日	02時51分	N24° 24.7'	E122° 16.4'	66	6.1	(6.6)	6.2	台湾付近	建物被害1件、NWPTA発表
5	09月	10日	03時36分	S 7° 51.0'	E114° 19.5'	35	4.8			バリ海	負傷者13人以上、建物被害
6	09月	10日	10時49分	N 2° 57.3'	W 78° 02.2'	10			6.8	コロンビア西岸	
7	09月	12日	20時10分	S 4° 30.0'	E101° 21.6'	34	7.0	8.5	8.4	インドネシア、スマトラ南部	死者25人以上、負傷者161人以上
8	09月	12日	23時40分	S 3° 13.6'	E101° 21.6'	18	6.0			インドネシア、スマトラ南部	建物被害52,522件
9	09月	13日	08時49分	S 2° 32.1'	E100° 55.6'	35			7.9	インドネシア、スマトラ南部	No.7の地震により津波を観測
10	09月	13日	12時35分	S 2° 09.3'	E 99° 34.8'	22	6.4		7.0	インドネシア、スマトラ南部	TWI発表(No.7.9.10)
11	09月	13日	18時48分	N 3° 47.2'	E126° 18.7'	10	6.2	6.2	6.3	インドネシア、タラウド諸島	NWPTA発表
12	09月	14日	01時09分	S 3° 13.5'	E101° 27.7'	50	6.1		6.0	インドネシア、スマトラ南部	
13	09月	14日	15時01分	S 4° 06.6'	E101° 09.2'	23	6.0		6.2	インドネシア、スマトラ南部	TWI発表
14	09月	19日	16時27分	S 2° 43.4'	E100° 58.6'	35	5.7		6.0	インドネシア、スマトラ南部	
15	09月	20日	17時31分	S 2° 01.3'	E100° 08.2'	30	6.4	6.5	6.7	インドネシア、スマトラ南部	
16	09月	25日	14時15分	S30° 55.2'	E179° 53.5'	400			6.2	ケルマデック諸島	
17	09月	26日	21時36分	S 4° 52.8'	E153° 24.1'	10			6.7	バブアニューギニア、ニューアイルランド	
18	09月	27日	00時43分	S 1° 44.7'	E 99° 30.9'	26	5.8	6.1	6.0	インドネシア、スマトラ南部	
19	09月	28日	04時57分	S21° 16.6'	E169° 21.9'	21	6.2	6.3	6.1	ローヤリティー諸島南東方	
20	09月	28日	10時01分	S21° 20.8'	E169° 25.2'	10			6.3	ローヤリティー諸島南東方	
21	09月	28日	10時35分	S21° 15.4'	E169° 26.4'	10			6.3	ローヤリティー諸島南東方	
22	09月	28日	22時38分	N21° 58.8'	E142° 42.1'	261			7.4	マリアナ諸島	
23	09月	30日	11時08分	N10° 29.2'	E145° 40.9'	10			6.9	マリアナ諸島南方	NWPTA発表
24	09月	30日	14時23分	S49° 23.4'	E163° 52.3'	10			7.4	オークランド諸島	
25	09月	30日	18時47分	S49° 24.5'	E163° 15.9'	10	6.7	6.7	6.6	オークランド諸島	

・震源要素、被害状況等は米国地質調査所(USGS)発表の QUICK EPICENTER DETERMINATIONS(QED)による(2007年10月3日現在)。ただし、日本付近で発生した地震については震源要素及びマグニチュード(Msの欄に括弧を付して記載)は気象庁による。

・時分は震源時で日本時間[日本時間=協定世界時+9時間]である。

・NWPTAは、気象庁が北西太平洋域に提供している北西太平洋津波情報、TWIは気象庁がインド洋沿岸諸国に暫定提供しているインド洋津波監視情報である(地震・火山月報(防災編)2005年5月号参照)。

9月12日 インドネシア〔スマトラ南部〕の地震

2007年9月12日20時10分（日本時間）、インドネシアのスマトラ南部（首都ジャカルタの西北西約640km付近）の深さ34kmでMw8.4（Global CMT解によるモーメントマグニチュード、以下同じ）の地震が発生した。この地震により、インドネシアのブンクルとパダンで死者25名以上、負傷者161名などの被害を生じた（10月3日現在、USGSによる）。この地震について気象庁は、同日20時36分に「インド洋の広域で破壊的な津波発生の可能性あり」の旨の「インド洋津波監視情報」を、20時47分に「日本への津波の影響なし、インド洋で津波発生の可能性あり」の旨の「遠地地震に関する情報」を発表した。この地震により津波が発生し、インドネシアのパダンで津波の最大の高さ1.1mを観測した。

この付近はインド・オーストラリアプレートがユーラシアプレートの下に沈み込んでいる地域で、今回の地震はインド・オーストラリアプレートとユーラシアプレートの境界で発生した地震と考えられる。

今回の地震の震源付近では2000年6月5日にMw7.8の地震が発生し、死者103名、負傷者2,585名などの被害が発生している。インドネシア付近の被害地震を見ると、2004年12月26日に発生したスマトラ島西方沖の地震（Mw9.0）など、甚大な被害を伴う地震が発生している。

図1-1 震央分布図（1970年1月1日～、M $\geq$ 5.0、深さ100km以浅）

震源データはUSGS、MwはGlobal CMT解による。2007年9月1日以降の震源を濃く表示した。→はインド・オーストラリアプレートのおおよその進行方向を示す。

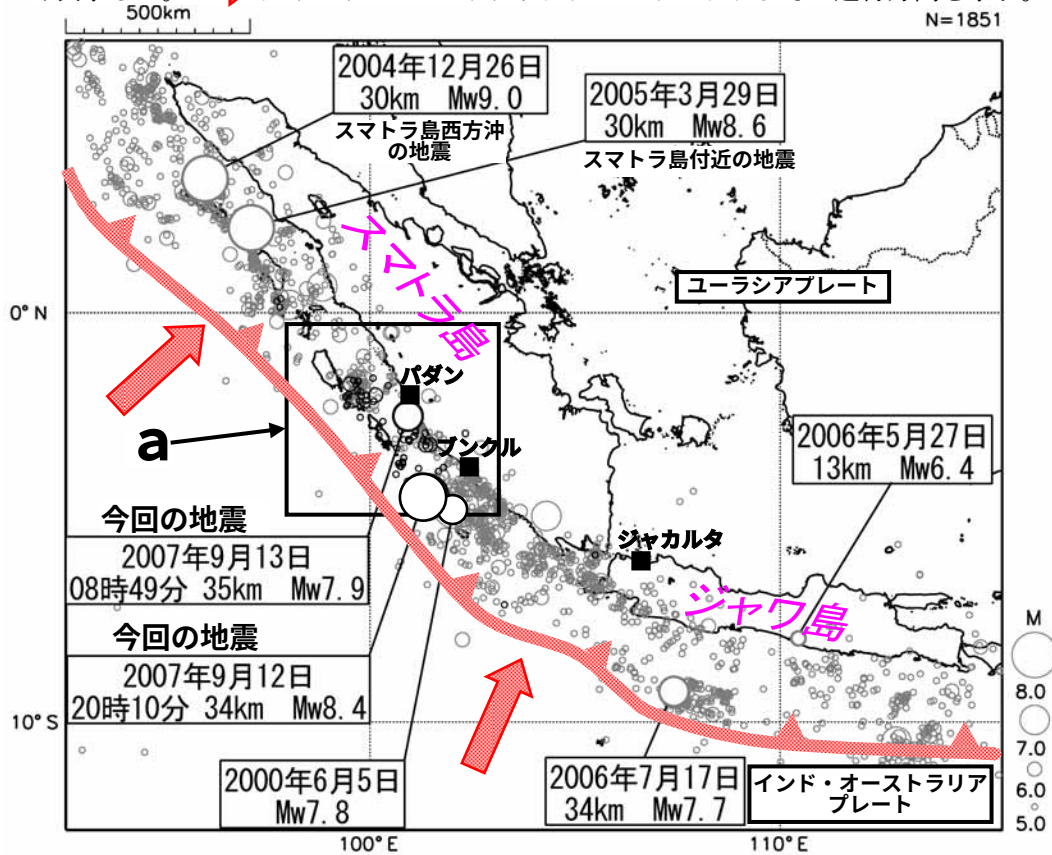
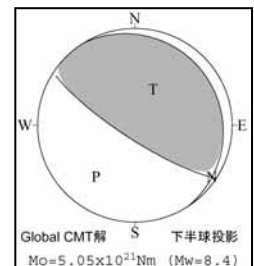
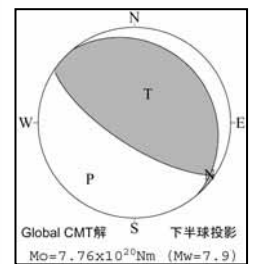


図1-2 Global CMT解



2007年9月12日
Mw8.4



2007年9月13日
Mw7.9

図1-3 領域aの拡大図（深さ0～300km、M $\geq$ 4.0）

2007年9月1日以降の震源を濃く表示

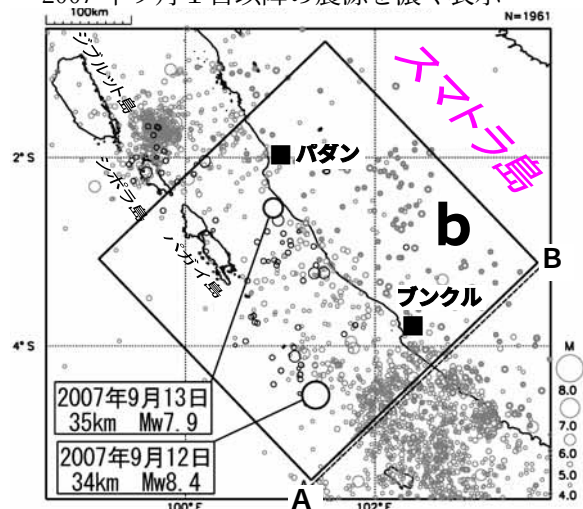
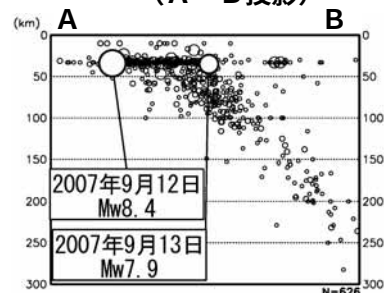


図1-4 領域bの断面図（A-B投影）



今回の地震（Mw8.4）の発震機構は北東-南西方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。なお、今回の地震の震源から北北西約220km離れた場所で、9月13日08時49分にMw7.9（深さ35km）の地震が発生している。

(1) 地震波形の比較

最近 10 年間の世界で発生した地震をみると、今回の地震は 2004 年 12 月 26 日のスマトラ島西方沖の地震 (Mw9.0)、2005 年 3 月 29 日のスマトラ島付近の地震 (Mw8.6) に次いで大きいものであった。

気象庁松代精密地震観測室の広帯域地震計で観測した、今回の地震と 2004 年 12 月 26 日スマトラ島西方沖 (Mw9.0) の地震波形の比較を図 2 に示す。今回の地震は 2004 年 12 月 26 日スマトラ島西方沖の地震 (Mw9.0) と比べて規模が小さかったことが波形からも見て取れる。

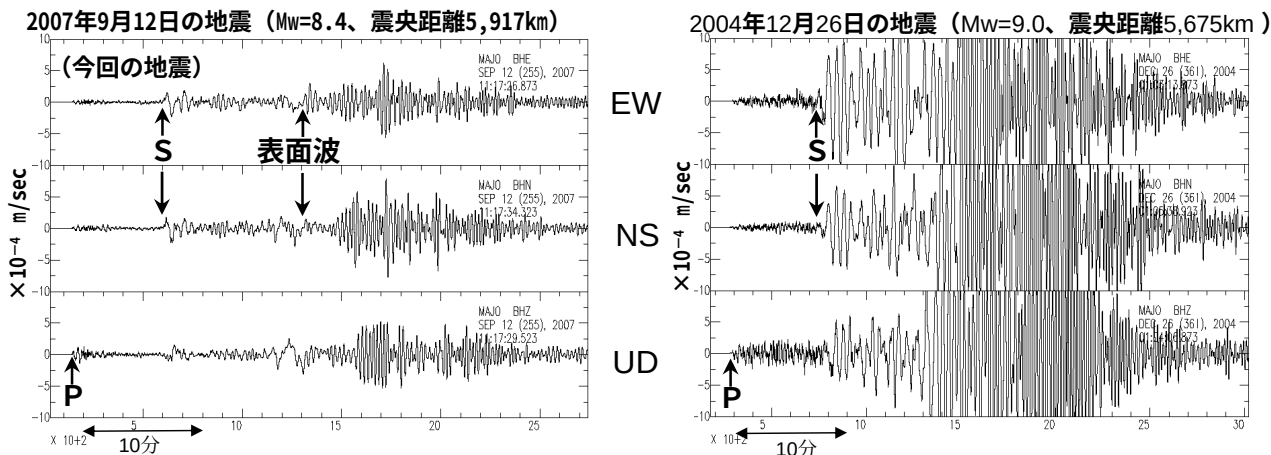


図 2 今回の地震 (Mw8.4) と 2004 年 12 月 26 日スマトラ島西方沖 (Mw9.0) の地震波形

広帯域地震計で観測された波形を示す。図中に P 波、S 波、表面波を矢印で示した。縦軸のスケールはすべて同じにしている。

(2) 津波

今回の地震によりインド洋の各地の検潮所で観測した津波の波形を図 3-2 に、津波の観測結果を表 3 に示す。パダン検潮所 (インドネシア) で日本時間の 12 日 23 時 27 分に津波の最大の高さ 1.1m を観測するなど、インド洋の各地の検潮所で津波が観測された。なお、津波による被害は報告されていない。

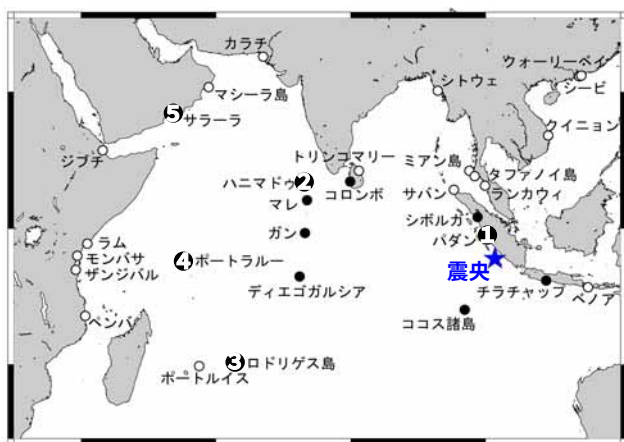


図 3-1 気象庁が津波監視に用いている検潮所

●は津波を観測した検潮所 (表 3 に対応) を、●の中の数字は図 3-2 及び表 3 の検潮所と対応している。

↓地震発生時刻

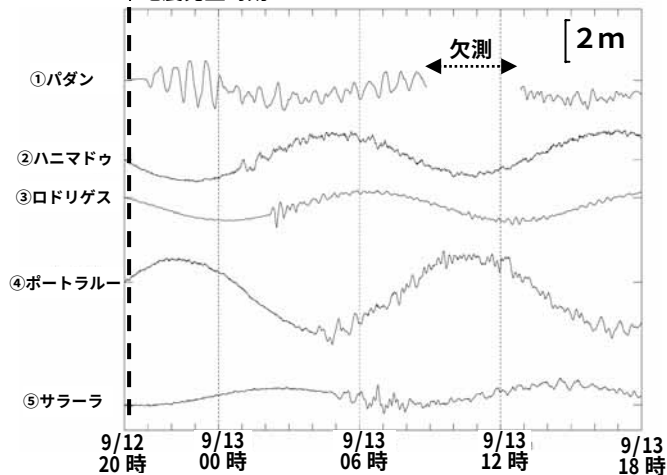


図 3-2 検潮所で観測した津波の波形

津波の最大の高さ 0.4m 以上のものを示した。

表 3 津波の観測結果 (検潮所名の数字は図 3-1 ~ 2 に対応している)

検潮所名 (国名)	津波観測値		最大の高さ	
	到達時刻	押し・引き及び高さ	発現時刻	高さ
①パダン (インドネシア)	12日 20:55	引き 0.4m	12日 23:27	1.1m
ココス諸島 (オーストラリア)	12日 21:28	押し 0.1m	12日 21:39	0.1m
チラチャップ (インドネシア)	12日 22:13	不明	13日 01:26	0.2m
シボルガ (インドネシア)	12日 22:45	不明	13日 05:20	0.2m
コロombo (スリランカ)	13日 00:17	押し 0.1m	13日 02:53	0.3m
ガン (モルディブ)	13日 00:17	押し 0.2m	13日 00:38	0.2m
ディエゴガルシア (英領チャゴス諸島)	13日 00:22	押し 0.1m	13日 00:32	0.1m
マレ (モルディブ)	13日 00:30	押し 0.1m	13日 00:41	0.1m
②ハニマドゥ (モルディブ)	13日 00:57	押し 0.4m	13日 01:03	0.4m
③ロドリゲス島 (モーリシャス)	13日 02:13	押し 0.3m	13日 02:39	0.6m
④ポートルール (セーシェル)	13日 03:21	不明	13日 05:06	0.6m
⑤サララ (オマーン)	13日 04:48	引き 0.3m	13日 06:48	0.5m

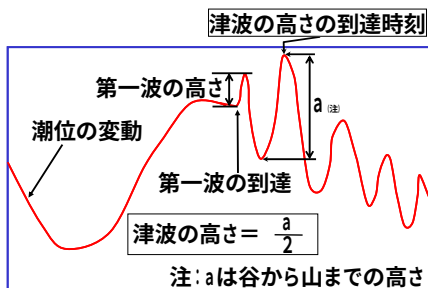


図 3-3 津波の測り方の模式図

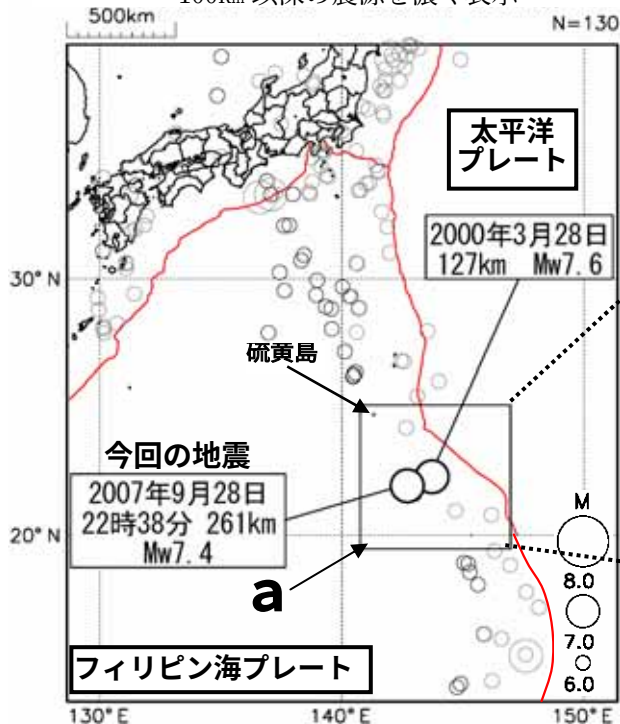
9月28日 マリアナ諸島の地震

2007年9月28日22時38分（日本時間）にマリアナ諸島の深さ261kmでMw7.4（Global CMT 解によるモーメントマグニチュード、気象庁によるマグニチュードはM7.6）の地震が発生し、国内で最大震度2を観測した。この地震により気象庁は23時01分に北西太平洋津波情報（津波発生の可能性なし）を発表した。この地震による被害の報告はない（10月1日現在、USGSによる）。

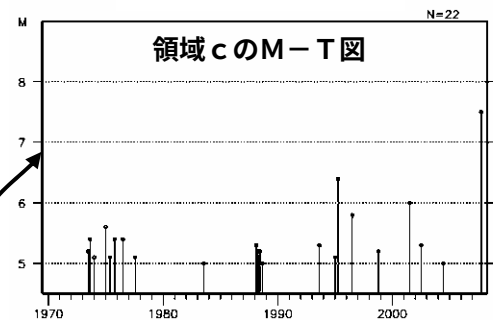
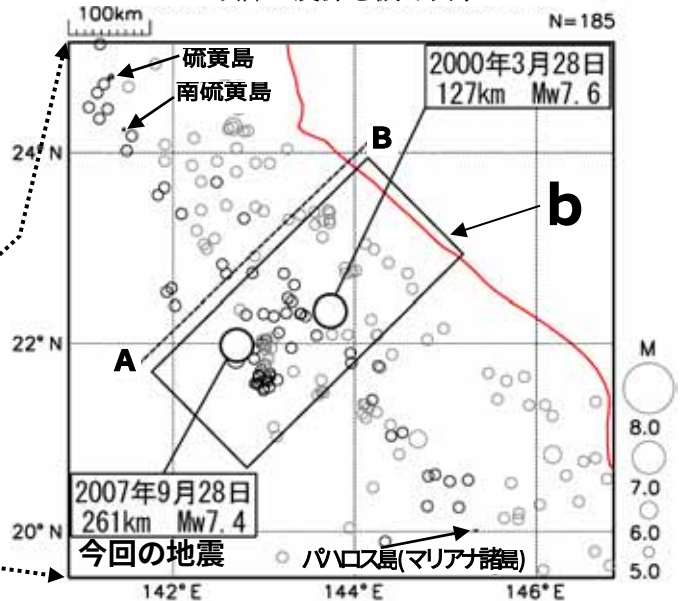
この付近は、太平洋プレートがフィリピン海プレートの下に高角で沈み込んでいるところで、今回の地震は太平洋プレート内部で発生した地震と考えられる。発震機構（Global CMT 解）は太平洋プレートの沈み込む方向に張力軸を持つ型であった。

1970年以降の100km以深の地震活動を見ると、2000年3月28日にMw7.6（深さ127km、国内で最大震度3）が発生しているものの、今回の地震の震源付近でM7を超える地震は珍しい。

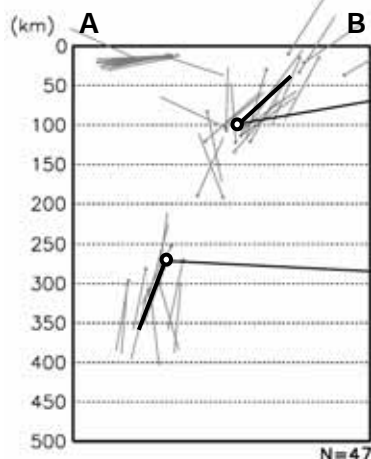
震央分布図（震源はUSGSによる）
（1970年1月1日～2007年10月2日、深さ0～700km、 $M \geq 6.0$ ）
100km以深の震源を濃く表示



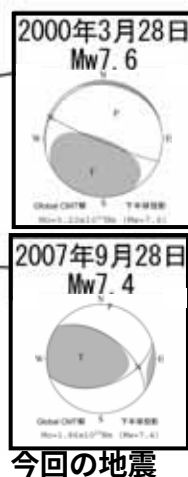
領域aの拡大図（ $M \geq 5.0$ 、深さ500km以浅）
100km以深の震源を濃く表示



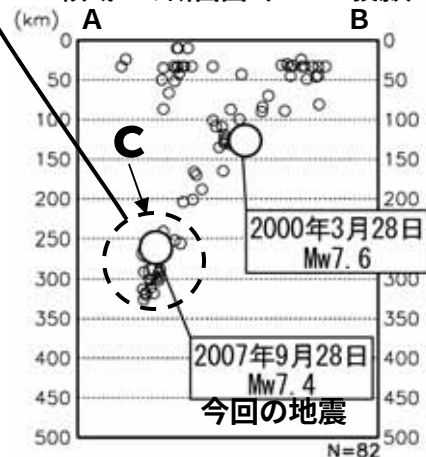
領域bの張力軸の断面図（A-B投影）
（Global CMT 解による）



発震機構解
（Global CMT 解）



領域bの断面図（A-B投影）



9月30日 マリアナ諸島南方（グアム付近）の地震

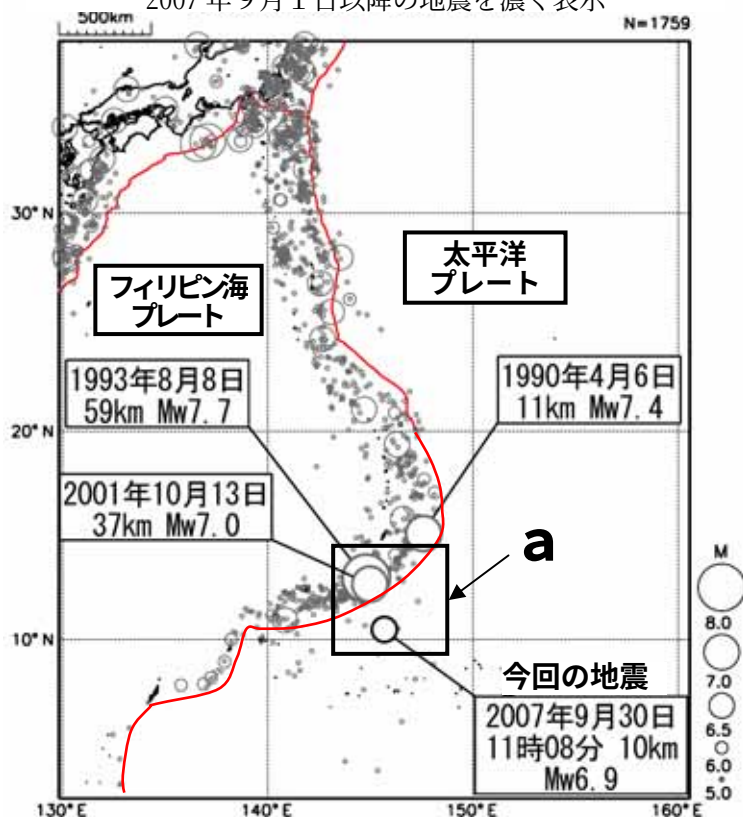
2007年9月30日11時08分(日本時間)にマリアナ諸島南方(グアム付近)の深さ10kmでMw6.9(Global CMT 解によるモーメントマグニチュード、以下同じ)の地震が発生した。この地震により気象庁は11時27分に北西太平洋津波情報(震央付近で局所的に、破壊的な津波発生の可能性)、12時47分に遠地震に関する情報(日本沿岸に若干の海面変動の可能性)を発表した。この地震による津波の報告はない(10月3日現在、太平洋津波警報センターによる)。また、この地震による被害の報告はない(10月3日現在、USGSによる)。

今回の地震はプレート境界より南東側で発生しており、太平洋プレート内部で発生した地震と考えられる。発震機構(Global CMT 解)はほぼ北西-南東方向に張力軸を持つ横ずれ型であった。

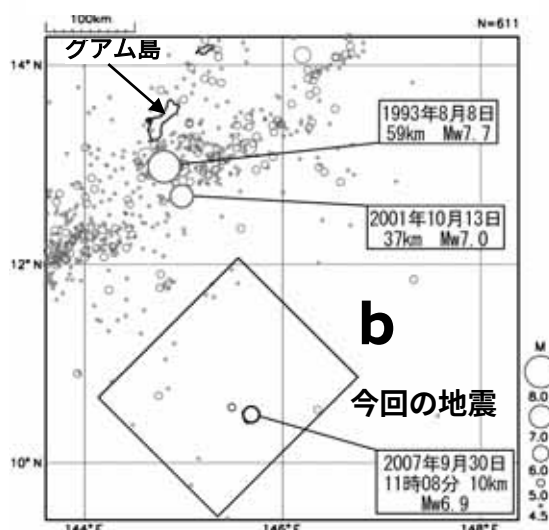
1970年以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近ではM6を超える地震は発生していなかった。

なお、プレート境界より北西側では地震活動が活発で、1993年8月8日にMw7.7の地震(日本の太平洋沿岸で津波観測、最大の高さは日南市油津の46cm)が発生している。

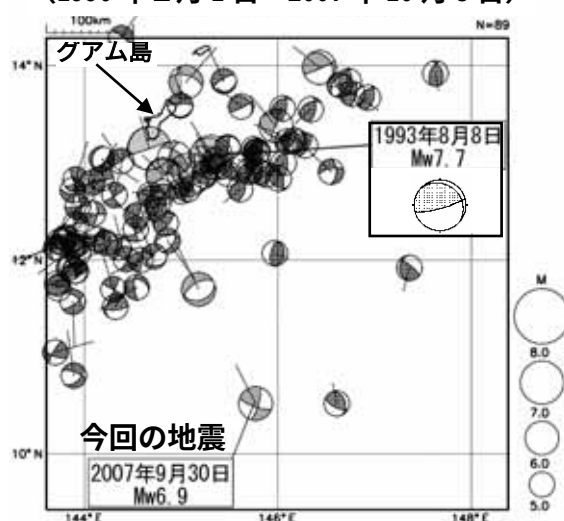
震央分布図(震源はUSGSによる)
(1970年1月1日~2007年10月2日、深さ100km以浅、 $M \geq 5.0$)
2007年9月1日以降の地震を濃く表示



領域aの拡大図($M \geq 4.5$)

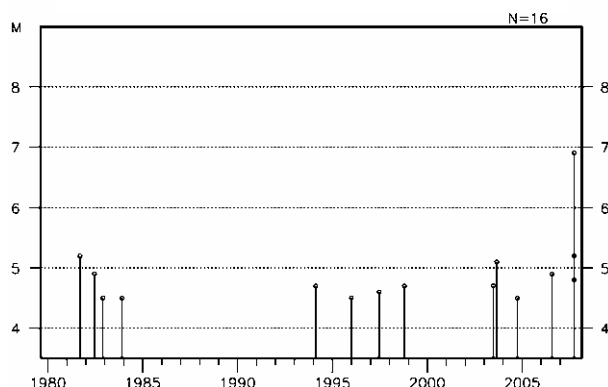


領域aの発震機構解(Global CMT 解による)
(1990年1月1日~2007年10月3日)



※発震機構解から伸びる線は張力軸の方向を示す

領域bのM-T図($M \geq 4.5$)



平成 19 年 9 月の主な火山活動

【噴火した火山】

▲ 諏訪之瀬島【活発な状況（レベル 3）】

17 日に爆発的噴火が 2 回発生したほか、28～29 日に小規模な噴火が発生した。

【活発もしくはやや活発な状況の火山】

● 樽前山【やや活発な状況】

A 火口及び B 噴気孔群は依然として高温状態が続いていると推定される。

● 三宅島【やや活発な状況】

多量の火山ガスの放出が続いている。

● 硫黄島【やや活発な状況】

国土地理院の観測によると、島全体が大きく隆起する地殻変動が継続している。

● 福徳岡ノ場※【やや活発な状況】

20 日に第三管区海上保安本部が、25 日に海上自衛隊が上空から行った観測によると、火山活動によると見られる変色水が確認された。

● 桜 島【比較的静穏な噴火活動（レベル 2）】

今期間、噴火は観測されなかったが、長期にわたり噴火活動が継続している。

● 薩摩硫黄島【やや活発な状況（レベル 2）】

噴煙活動はやや活発で、火山性地震のやや多い状態が続いている。

● 口永良部島【やや活発な状況（レベル 2）】

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながら、やや多い状態が続いている。

【静穏な状況であるがデータに変化があった火山】

◇ 阿蘇山【静穏な状況（レベル 1）】

15 日夜、阿蘇火山博物館の火口カメラにより、中岳第一火口南側火口壁の一部の噴気孔で赤熱現象が確認された。この現象は 18 日、20 日及び 26 日に行った現地調査でも確認されているが、中岳第一火口の湯だまりの湯量やその表面温度に特段の変化がないことから、きわめて局所的な現象と考えられる。また、地震活動にも特段の変化はなく、火山活動は静穏な状況が続いている。

注 1 本資料で示すレベルとは、現在 12 火山に導入している火山活動度レベルをいう。

注 2 火山名に下線を引いた火山について、説明資料（火山活動解説資料）を配布。

注 3 記号の意味

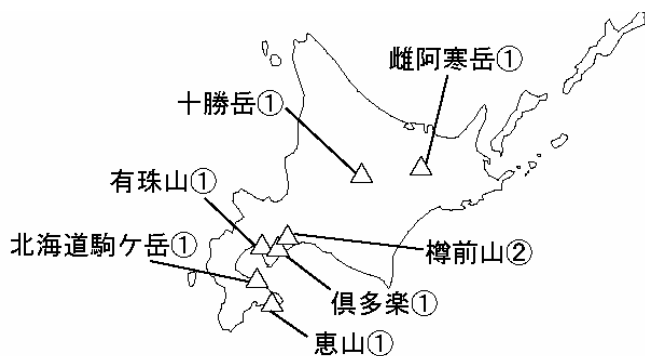
▲：噴火した火山 ●：活動が活発もしくはやや活発な状況の火山

◇：静穏な状況であるが観測データ等に変化のあった火山

※ 海底火山

各火山の活動状況

【北海道地方】



【東北地方】



【関東・中部地方、伊豆・小笠原諸島】



【中国・九州地方、南西諸島】



凡例

①：火山活動が静穏な状況

②：火山活動がやや活発な状況

③：火山活動評価が活発な状況

注) 2重線を引いた数字はレベルを示す。

①：レベル1

②：レベル2

③：レベル3

△：解説を掲載した火山

▲：解説を掲載した火山のうち噴火した火山

※：海底火山

過去1年間の火山活動の状況（やや活発もしくは活発な状況であった火山）

火 山 名	※	平成18年			平成19年								
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
十 勝 岳	噴火活動	②	②	②	②	②→①	①	①	①	①	①	①	①
樽 前 山	噴火活動	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②
御 嶽 山	噴火活動	①	①	①	①→②	②	②	②	②→①	①	①	①	①
三 宅 島	噴火活動	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②
硫 黄 島	噴火活動	①	①	①	①→②	②	②	②	②	②	②	②	②
福 徳 岡 ノ 場	噴火活動	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②
霧 島 山（新燃岳）	噴火レベル	①	①	①→②	②→①	①	①	①	①	①	①	①	①
霧 島 山（御鉢）	噴火レベル	①	①	①	①	①→②	②→①	①	①	①	①	①	①
桜 島	噴火レベル	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲		▲	
薩 摩 硫 黄 島	噴火レベル	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②
口 永 良 部 島	噴火レベル	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②
諏 訪 之 瀬 島	噴火レベル	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲

※噴火が発生した場合▲で示す。レベル及び活動は、火山活動度レベルが導入されている火山については火山活動度レベルを、それ以外の火山については活動評価をそれぞれ示す。

凡例

- ①：火山活動が静穏な状況もしくはレベル1
- ②：火山活動がやや活発な状況もしくはレベル2
- ③：火山活動が活発な状況もしくはレベル3

2007 年 9 月の火山情報発表状況

火山情報の発表はありませんでした。

全国の火山活動評価結果（9月30日現在）

（１）主な活火山（36 火山）

	火山名	火山活動評価（9月30日現在）	最近の活動経過	
北海道地方	雌阿寒岳	静穏な状況	平成17年6月21日 静穏 平成18年2月18日 やや活発 3月21日 【噴火】活発 4月12日 やや活発 5月25日 静穏	☆
	十勝岳	静穏な状況	平成17年6月21日 やや活発 平成19年2月16日 静穏	☆
	樽前山	やや活発な状況	平成17年6月21日 やや活発	☆
	倶多楽	静穏な状況	平成18年2月28日 静穏	☆
	有珠山	静穏な状況	平成17年6月21日 静穏	☆
	北海道駒ヶ岳	静穏な状況	平成17年6月21日 静穏	☆
	恵山	静穏な状況	平成17年11月2日 静穏	☆
東北地方	岩手山	静穏な状況	平成17年6月21日 静穏	☆
	秋田駒ヶ岳	静穏な状況	平成17年6月21日 静穏	☆
	栗駒山	静穏な状況	平成18年11月14日 静穏	☆
	吾妻山	静穏な状況（レベル1）	平成17年2月1日 静穏	※
	安達太良山	静穏な状況	平成17年6月21日 静穏	☆
	磐梯山	静穏な状況	平成17年6月21日 静穏	☆
関東・中部地方及び伊豆・小笠原諸島	那須岳	静穏な状況	平成17年6月21日 静穏	☆
	草津白根山	静穏な状況（レベル1）	平成17年6月1日 静穏（レベル1）	※
	浅間山	静穏な状況（レベル1）	平成15年11月4日 やや活発（レベル2） 平成16年7月20日 静穏（レベル1） 7月31日 やや活発（レベル2） 9月1日 【噴火】活発（レベル3） 平成17年6月21日 やや活発（レベル2） 平成18年9月22日 静穏（レベル1）	※
	新渥焼山	静穏な状況	平成18年2月28日 静穏	☆
	御嶽山	静穏な状況	平成17年6月21日 静穏 平成19年1月19日 やや活発 平成19年5月25日 静穏	☆
	白山	静穏な状況	平成17年11月2日 静穏	☆
	富士山	静穏な状況	平成17年6月21日 静穏	☆
	箱根山	静穏な状況	平成18年11月14日 静穏	☆
	伊豆東部火山群	静穏な状況	平成17年6月21日 静穏	☆
	伊豆大島	静穏な状況（レベル1）	平成15年11月4日 静穏（レベル1）	※
	三宅島	やや活発な状況	平成17年6月21日 やや活発	☆
	八丈島	静穏な状況	平成18年2月28日 静穏	☆
	硫黄島	やや活発な状況	平成17年6月21日 静穏 平成19年1月9日 やや活発	☆
	福德岡ノ場	やや活発な状況	平成17年11月2日 やや活発	☆

	火山名	火山活動評価（9月30日現在）	最近の活動経過		
九州地方・南西諸島	九重山	静穏な状況（レベル1）	平成17年2月1日	静穏（レベル1）	※
	阿蘇山	静穏な状況（レベル1）	平成15年11月4日 平成16年1月14日 2月13日 平成17年4月14日 5月13日 平成18年1月20日 3月24日 8月4日	やや活発（レベル2） 【噴火（土砂噴出）】 活発（レベル3） やや活発（レベル2） 【噴火（土砂噴出）】 活発（レベル3） やや活発（レベル2） 静穏（レベル1） やや活発（レベル2） 静穏（レベル1）	※
	雲仙岳	静穏な状況（レベル1）	平成15年11月4日	静穏（レベル1）	※
	霧島山（新燃岳）	静穏な状況（レベル1）	平成17年2月1日 平成18年2月1日 5月22日 平成18年12月3日 平成19年1月9日	静穏（レベル1） やや活発（レベル2） 静穏（レベル1） やや活発（レベル2） 静穏（レベル1）	※
	霧島山（御鉢）	静穏な状況（レベル1）	平成17年2月1日 平成18年5月22日 平成19年2月5日 平成19年3月5日	やや活発（レベル2） 静穏（レベル1） やや活発（レベル2） 静穏（レベル1）	※
	桜島	比較的静穏な噴火活動（レベル2）	平成15年11月4日 平成18年6月12日 8月18日	比較的静穏な噴火活動（レベル2） 【昭和火口から噴火】 活発（レベル3） 比較的静穏な噴火活動（レベル2）	※
	薩摩硫黄島	やや活発な状況（レベル2）	平成17年2月1日	やや活発（レベル2）	※
	口永良部島	やや活発な状況（レベル2）	平成17年2月1日	やや活発（レベル2）	※
	諏訪之瀬島	活発な状況（レベル3）	平成17年2月1日	【噴火継続】 活発（レベル3）	※
	硫黄島	静穏な状況	平成19年2月16日	静穏	☆

注）最近の活動経過欄は、火山活動度レベル導入火山（※）にはレベル導入日からの、それ以外の火山（☆）には第101回火山噴火予知連絡会（平成17年6月21日開催）以降最初に評価を明記した火山噴火予知連絡会開催日からの活動経過を示している。

（2）その他の活火山（49火山）

以下の活火山では、いずれも火山活動は静穏な状況である。

	火 山 名
北海道地方	知床硫黄山、羅臼岳、摩周、アトサヌブリ、丸山、大雪山、利尻山、恵庭岳、羊蹄山、ニセコ、渡島大島
東北地方	恐山、岩木山、八甲田山、十和田、秋田焼山、八幡平、鳥海山、鳴子、肘折、蔵王山、沼沢、燧ヶ岳
関東・中部地方 及び伊豆・小笠原諸島	高原山、日光白根山、赤城山、榛名山、横岳、妙高山、弥陀ヶ原、焼岳、アカンダナ山、乗鞍岳、利島、新島、神津島、御蔵島、青ヶ島
中国・九州地方 及び南西諸島	三瓶山、阿武火山群、鶴見岳・伽藍岳、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島

（補足）評価対象外の活火山（23火山）

無人島：伊豆鳥島、西之島

岩礁あるいは岩：ベヨネース列岩、須美寿島、嬬婦岩

海底火山：海形海山、海徳海山、噴火浅根、北福德堆、南日吉海山、日光海山、西表島北北東海底火山

北方四島：茂世路岳、散布山、指臼岳、小田萌山、択捉焼山、択捉阿登佐岳、ベルタルベ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山

● 世界の主な火山活動

平成 19 年（2007 年）9 月に噴火したと報告された主な火山（日本を除く）は下図のとおりである。
このうち、顕著な活動が見られた主な火山は以下のとおりである。

アルタイール（紅海、イエメン）（図中A）

30日に噴火し、溶岩が約1km流れ、海にまで達した。この噴火により3名が死亡し、軍事基地の兵士全員が避難した。

(以上、米国スミソニアン自然史博物館のGVP(Global Volcanism Program)による。日付は全て現地時間。火山名の読み方は、原則として気象庁：「火山観測指針(参考編)」による。)

